

統合報告書

COMANY REPORT

2024

Dear
Future Partner

From

Empower all Life

Opening Letter

コマニーさんへ

突然のお手紙 失礼いたします。

私は先日、「問^まづくり」という言葉を
初めて聞きました。

そしてこの言葉は、「問仕切りメーカー」から
「問づくりカンパニー」に変わったコマニーさんが
創り出したものだ我知道了。

「問づくり」という言葉の響きに
なぜか心が温かくなり、なにか
大切な意味が込められている気がしてなりません。

あらためて、「問づくり」とは 何ですか？

「問づくり」をすることで、どんな変化が起こるのですか？

「問づくり」をした先に、どのような未来を
見ているのですか？

「問づくり」についてもっと知りたく、ぜひ教えてください。

コマニー 株式会社 様

間づくりで
Empower all Lifeを実現する
この旅は、ここからが面白い。



代表取締役 社長執行役員

塚本 健太

1 はじめに

地球の未来は、今どこに向かっているのでしょうか。
戦後の日本は、大きな経済成長を続けながら復興を遂げてきました。世の中が食べ物すらまならなかった貧しい時代において、うなぎのぼりの復興や経済成長は夢や希望に満ち溢れていたに違いありません。

そんな華やかな時代が終わり、平成の時代になると、次は一気に低成長時代に突入しました。とはいえ、物は溢れるほど満ち足りていますし、日本は世界第二位の経済大国でもありました。

それなのに、日本の幸福度は先進国の中でも極めて低い。自殺者や心の病気をもつ人が後を絶たない。幸福を感じて生きられている人の数は人口の半数にも満たない。失われた30年、平成はそんな時代をたどりました。

令和に入り、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）を経て、多くの人が真の幸福（しあわせ）について気づき考えはじめています。今、確実に世の中の幸福に対する価値観が変化してきているのではないのでしょうか。幸福とは、ただ物が豊かであればよいのではなく、物心両面で幸福でなければならない、特に真の幸福は心の幸福が実現されていなければならないということです。

これからの令和時代の経営は、「幸福は、心も豊かにならないければ真の幸福にはならない」という価値観の変化に対応する経営へと意識変容（パラダイムシフト）を起こし、Well-beingな社会を創り上げなければならない時代になっていくと考えています。

そのような中で私が目指したい姿は、人々が愛を実践し、誰一人取り残すことなく、人類・地球を含めたすべての生命体が調和し、発展していく幸福な社会を実現することです。素晴らしい世の中を創り明るい未来を切り拓いていくためには、コマニーが単に一企業として発展していくのではなく、関わるすべての人と共存共榮し、懸命な努力をし続ければ、必ずや平和で幸福あふれる世の中を創ることができると私は信じています。

2 理念をベースにした経営

このような時代にこそ私たちが大切にしなければいけ

ないことは、より本質的な活動をしていくということです。私たちは創業以来、ずっと「心をベースとした経営」を行ってきました。創業者である塚本信吉氏が、創業間もなくして訪れた苦難の末に行き着いた当社の5つの社是を、今もなお大切に受け継いでいます。

一、我等の精神は人道と友愛である

一、我等の生活は共存共榮の中に成り立つべきである

一、我等の使命は社会に貢献すべきである

一、我等は知識を高め技術を磨き絶えず前進すべきである

一、我等は余暇を楽しみより豊かで幸福な人生を送るべきである

「人道とは、成長と貢献によるこびを感じる生き方」、「友愛とは、自分も自分以外のすべての人も愛する心」のことです。

私たちはこの「人道と友愛」をベースに、持続可能な社会の実現を目指すとともに、誰もが自分らしく社会に参加し、それぞれがお互いを尊重し合い、共存共榮できる社会を実現することが、この時代に生きる私たちに与えられた役割であると感じています。

3 間仕切りメーカーから間づくりカンパニーへ

コマニーは60年余り、ずっと間仕切りをつくり続けてきました。間仕切りとは一見、間（ま）を二つに分けることを意味するようにとらえがちですが、大切なのはそれによって新たな「間」を生み出しているということです。ですから間仕切りの本当の意味は、間を区切るのではなく、「間」をつくることであると考えています。私たちは「間」をまっすぐに見つめ直し、受動的で固定的に間を仕切るのではなく、能動的に可變的に間をつくりあげていきます。

私たちは、「間」とは「二つ以上の要素がある場合に生成される関係性」、そして「間」をより良い方向に整え、すぐれた間を生成することを「間づくり」と定義し、その可能性を追求しています。「よい間」を生成することができたならば、より価値高く、一人一人が光り輝ける社会を実現できると信じています。

すぐれた間を生成するためのアプローチとしては、「人





間」を中心に「時間」「空間」をとらえ、それにどのような「手間」をかけるかによって、様々な間を生み出します。

今まで私たちは、目の前にある問題や課題を解決しようとしていました。でも本当に大事なのは目先の問題ではなく、人間を中心とした「関係性」を整えることを本質的な価値ととらえることにしました。

つまり、間づくりから生まれた関係性そのものが新たな価値を生み出していくということです。そして、私たちは「間づくり」の可能性を追求していくことで「Empower all Life」の実現を目指してまいります。

4 Empower all Life

～一人一人が光り輝く社会に貢献～

私たちが2030年までに目指す姿は「Empower all Life～一人一人が光り輝く社会に貢献～」をすることです。これは、私たちコマニーがもつ「企業は世の中の幸福に貢献するために存在すべきである」という信念をベースに、「すべての人が光り輝く人生を送るために、より良く働き、より良く学び、より良く生きるための持続可能な環境づくり、人づくりに貢献する」という使命を果たし、実現したい姿そのものです。人はそれぞれがもつ強みや個性、また生まれ育った環境などが違います。これらの違いを互いに認め合い、それぞれの個性を活かし合って相乗効果を生み出し、一人一人が自分らしく光り輝くことができるこそ、本当に求めるべき幸福ではないでしょうか。人が自分らしく生き、光り輝くためには、「自分らしくあることに対する不安を感じる必要がない、安心と安全の確保」がなされているながら、「自分の良心や志に素直に生き、可能性を切り拓くための挑戦ができる環境が整っていること」が大切だと考えています。

私たちが生み出したい社会的インパクトの指標としては「1億人のWell-being向上」と「50%の環境負荷削減」を目標に設定しています。

そして、これらを実現するための事業モデルが「COMANY ∞ (メビウス) モデル」です。この∞モデルはプロダクト・サービスを通じてどのように世の中に貢献するかを表すにとどまらず、私たちに関わるステークホルダーの皆様の幸福にどのように貢献するかも表しています。私たちの信念である「関わるすべての人の幸福に貢献する経営」

を目指し、∞モデルを持続的に循環することを通じて地球環境とも調和しながら、お客様、サプライヤー等のお取引先様、従業員、地域社会へのより大きな幸福を実現してまいります。

5 ステークホルダーの皆様と歩む未来

私たちは、関わるすべての人が真に幸福になるために、「共存共栄、社会に貢献、技術向上、豊かで幸福な人生」を一緒に歩めるよう、ともに「人道と友愛に生きる」ことで幸福を実現していきます。

お客様とはパートナーシップのもと、お客様からの要望や課題にただ応えるのではなく、お客様がもっと幸福になるにはどうすればよいか、どんな未来を描きたいのかを考え、寄り添い、その過程でかける手間により本当の価値をつくり出していきます。私たちの目指す間づくりはお客様のWell-beingに貢献する仕事であり、一緒に実現する同志として関係性を構築していきます。

お取引先様（サプライヤー様）は、お客様が叶えたいビジョンと一緒に叶える同志の関係です。ですから、お取引先様のビジョンは私たちのビジョンであり、私たちのビジョンもまたお取引先様のビジョンです。私たちが目指している共存共栄の姿は相互に言いたいことがしっかりと見え、相手の言いたいことはしっかりと受け止め、そしてともに同じ目的に向かって歩む、まさにビジョンパートナーとしての関係を築き上げていきます。

そしてこれから誰一人取り残すことなく、一人一人が光り輝き、幸福な世の中を創り出していくためには、地域社会との協創が欠かせません。行政は行政、企業は企業と、それぞれの役割をそれぞれで行ってはいはこれまでと何も変わらない明日しかありません。しかし、地域の中には行政も、教育機関も、企業も、そして市民もいます。それぞれの強みを活かし合う協創社会を創り出すことによって、これまでは実現できなかったような循環型社会の実現を目指していきます。

地球環境も同様です。地球環境との共存のもと企業活動を行うことが大前提であると考え、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品開発、省エネ・再エネ・リサイクルなどを通じた地球環境保護にも取り組んでいきます。



そして、従業員をはじめとして、お客様、お取引先様、地域社会、地球環境などコマニーに関わるすべてのステークホルダーとの「間」を大切に、お互いにとって調和のとれた関係性の構築と新たな価値創造を図ってまいります。

6 間づくりで Empower all Life を実現する

2030年へのムーンショット実現を目指すにあたり、私には信じていることがあります。それは、「人間の本質的なよろこびは良心に正直に生きることだ」ということです。人には必ず良心があります。心を常に磨き、人に優しく、思いやりをもって世の中の役に立つために懸命に努めることは、人間の本質的なよろこびに直結していると思うのです。人には誰もそれぞれ生まれもった強みや個性があります。そしてその人にしか果たすことができない唯一無二の使命があり、私には私にしかない、そしてあなたにはあなたにしかない素晴らしい価値が

あるのです。

一度しかない人生、生まれてきたからには少しでも多くの人の役に立ち、世の中に貢献することこそが人間の生まれもった使命ではないでしょうか。

それを実現するには、お互いにとっての「間」をどのように生成するかが重要であり、「間づくり」を通じて実現できると信じています。「間」とは関係性であり、人と人との関係性はもちろん、人と働く空間との関係性、人と制度の関係性、人とシステムや設備の関係性など、あらゆるものは関係性で成り立っています。この関係性を「間づくり」することにより、人間の本質的な幸福に繋がれると確信しています。

これからもコマニーは、創業の精神である「人道と友愛」を胸に、「Empower all Life」を実現させるため変えるべきことは大胆に変化させ、新たなことにも積極的に挑戦してまいります。そして世の中になくってはならない企業であり続けられるよう、これまで培ってきた技術力を駆使し、未来へ向かって人々が光り輝ける社会づくりの一翼を担えるよう、邁進してまいります。

未来のパートナー、あなたへ
素敵なお手紙を、ありがとうございます。
そして「間づくり」という言葉を気にとめてくれて、
とても嬉しく思います。
あなたの手紙にもあった通り、「間づくり」という言葉は
私たちが創り出したものです。
私たちには事業を通して世の中に貢献し、
たくさんの人々を幸福にしたいという強い想いがあります。
「間づくり」にはそれを叶える力があるのです。

私たちは人々の心がより豊かになる「間」を創り出すこと、
「間づくり」をすることこそが使命であると確信しています。
これからあなたの質問に対して、コマニー社員からお返事が届きます。
どうか未来のパートナーであるあなたに、
間づくりの素晴らしさが伝わりますように。

塚本健太



Letter 1

私たちは皆様の^{しあわせ}幸福を創造する
間づくりカンパニー

- 14 私たちが何より大切にしている「コマニー理念」
- 16 間仕切りメーカーから間づくりカンパニーへ
- 18 コマニーで生まれる、人の幸福を中心とした間づくり

Letter 2

私たちが目指す未来

- 22 私たちが目指す世界 Empower all Life
- 24 間づくりによる価値創造ストーリー
- 28 リスクと機会
- 30 Road to 2030

Letter 3

間づくりで変わる世界

- 34 間の研究から生まれた「はたらく」の新しい考え方 Pitch&Park
- 36 私たちが提供する「すぐれた間」
- 38 日常の間づくり
- 40 活動を加速する「間づくり研究所」
- 42 間づくりを世界へ オルガテック東京 2024
- 44 “当たり前”を覆す「間づくり研究」

Letter 4

ステークホルダーの皆様と歩む未来

- 50 コマニーグループサステナビリティ方針
- 52 お客様第一の追究
- 56 お取引先様（サプライヤー等）とのパートナーシップ
- 60 地球環境との共存
- 64 人間性尊重の職場づくり
- 68 社会貢献活動

Letter 5

私たちの今を伝える

- 74 役員紹介
- 76 コーポレート・ガバナンス
- 80 パフォーマンスハイライト・非財務情報
- 82 会社情報

間づくりで
Empower all Lifeを
実現する



私たちコマニーは「間づくり」を通してすべての人が光り輝く人生を送るために、より良く働き、より良く学び、より良く生きるための持続可能な環境づくり、人づくりに貢献することで Empower all Lifeを実現していきます。

Letter 1

私たちは皆様の
しあわせ
幸福を創造する
間づくりカンパニー

まずは、私たちが何より大切にしているものの話をさせてください。
私たちが最も大切にしているもの、それは「理念」です。
関わるすべての人の幸福を原動力「人道と友愛」「共存共栄」
「社会に貢献」「技術向上」「豊かで幸福な人生」の
実現を目指しています。

そして、この理念の中心にあるのは「人」です。
私たちは人の心をベースとして経営をしています。
どれだけモノが豊かようと、どれだけ便利なモノが発明されようと、
人々の心が本当に幸福でなければ意味がないのです。

なぜここまで「人」にこだわるのか。
私たちの熱い想いを矢口してください。

COMANY
Empower all Life

COMANY
PHILOSOPHY
BOOK

Empower all Life

私たちが何より大切にしている「コマニー理念」

この1冊を読んでいただくにあたり知っていただきたいのは、私たちが何より大切にしている「理念」についてです。
私たちの理念には、「コマニーに関わる人々を本気で幸福^{しあわせ}にしたい」という想いが込められています。
ただ商品売るだけではない、ただ儲けられれば良いのではない。
私たちに関わるすべての人々を幸福にすることこそが、企業として存在する目的だと考えています。
なぜここまで「人」や「幸福」にこだわるのか。その理由をお伝えします。

社是

- 一、我等の精神は人道と友愛である
- 一、我等の生活は共存共栄の中に成り立つべきである
- 一、我等の使命は社会に貢献すべきである
- 一、我等は知識を高め技術を磨き絶えず前進すべきである
- 一、我等は余暇を楽しみより豊かで幸福な人生を送るべきである

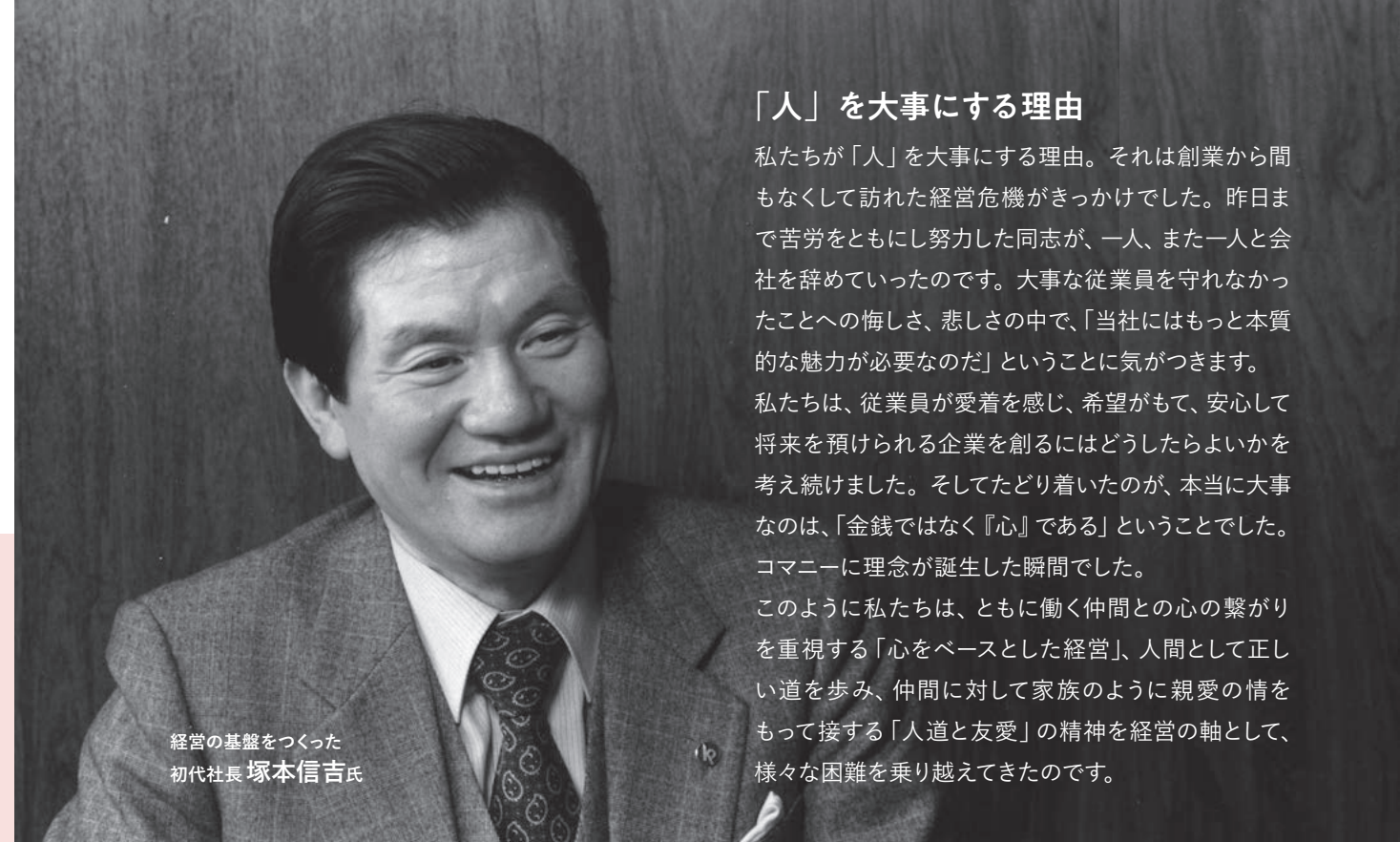
経営の理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献する

会社が存在する目的として示しているのが、経営の理念です。
コマニーが存在する目的は、そこに集う全従業員が仕事を通じて
物と心の両面の幸福を追求することです。
それは、人間として正しい道（人道）を貫き、自分のためだけでなく、
人のためにという利他の実践を通じて社会に貢献することで
実現できると考えています。

使命

すべての人が光り輝く人生を送るために、
より良く働き、より良く学び、より良く生きるための
持続可能な環境づくり、人づくりに貢献する



「人」を大事にする理由

私たちが「人」を大事にする理由。それは創業から間もなくして訪れた経営危機がきっかけでした。昨日まで苦労をともにし努力した同志が、一人、また一人と会社を辞めていったのです。大事な従業員を守れなかったことへの悔しさ、悲しさの中で、「当社にはもっと本質的な魅力が必要なのだ」ということに気がつきます。
私たちは、従業員が愛着を感じ、希望がもて、安心して将来を預けられる企業を創るにはどうしたらよいかを考え続けました。そしてたどり着いたのが、本当に大事なものは、「金銭ではなく『心』である」ということでした。
コマニーに理念が誕生した瞬間でした。
このように私たちは、ともに働く仲間との心の繋がりを重視する「心をベースとした経営」、人間として正しい道を歩み、仲間に対して家族のように親愛の情をもって接する「人道と友愛」の精神を経営の軸として、様々な困難を乗り越えてきたのです。

全社に浸透する理念

心をベースとした経営をするためには、従業員の心が同じベクトルを向いていることが重要です。ともに働く仲間を愛し、家族のように本音で向き合い、互いに心を高め合う。心をベースとしてお互いの意思を尊重す

る風土が、全社に広まっています。
一人一人が理念を理解して実践に繋げていくために、社内では様々な活動が行われています。

〔理念研修〕



年1回、全従業員が参加する「理念研修」が行われます。グループディスカッションなどを通して、自分の働き方や考え方、人生について本音で語り合い、お互いの意思を尊重しながら理念について学びます。

〔理念手帳の読み合わせ〕



コマニーが大事にしている77の理念が書かれた手帳が、従業員に配布されています。部署ごとに行われる朝礼では毎日項目を読み合わせ、メンバーで心のベクトルを合わせてから業務を開始します。



コマニーの歴史

我々は、間づくりカンパニーである

私たちは創業以来、ずっと間仕切り（パーティション）をつくり続けてきた。
そうして、世の中の間をたくさん分け続けてきた。いや、正確にはそうではない。
私たちが本当にやってきたことは、間仕切りによって、新たな「間」を生み出しているのだ。
そうやって間をつくることで新たな価値を創造する。

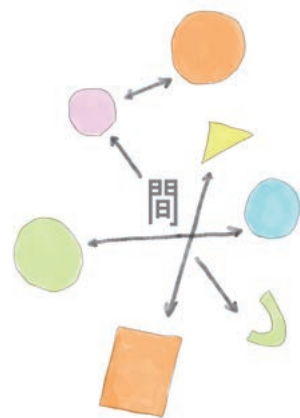
「間」とは、二つ以上の要素がある場合に生成される関係性。
私たちは、関係性を整えるために、「間」をつくってきたのだ。
時間、空間、風間、土間、合間…いろんな「間」が存在する。
人間だって「間」だ。人間を中心に、どんな時間とどんな空間をつくり出し、
そこでどんな手間を加えるのか？その関係性を整えていくこと。それが「間づくり」だ。

我々は、間づくりカンパニーである。

間（ま）

二つ以上の要素がある場合に生成する関係性

「間」とは日本がもつ伝統文化であり、建築や芸能の分野で重要な概念です。日本建築では、廊下に並ぶ扉の代わりに、「一の間」「二の間」「奥の間」といった空間が襖で仕切られ、お互いの間合いを調整します。芸能の世界でも「間は魔物」とされ、間の取り方が演技全体の質を左右します。「間」というたった一言でありながら、この言葉は「時刻、間隔」などの時間や「部屋、余地」などの空間、さらには「休み、余暇」や「機会、運」まで、実に多様で幅広い意味をもちます。コマニーではこれらを踏まえ、「間」とは「二つ以上の要素がある場合に生成する関係性」と定義しています。



間づくりの歴史 間仕切りメーカーから間づくりカンパニーへ

1961- 間を仕切る時代

高度経済成長期に、ロッカーやキャビネットを製造販売する会社としてコマニーの前身となる「小松キャビネット株式会社」が設立されました。しかし、キャビネット類は運送において遠方への輸送コストがかかる問題がありました。そこで、初代社長の塚本信吉氏が「スクリーン（衝立）」を開発し、ひとつの空間を「仕切る」ことで自由にレイアウトを変更できる「パーティション」を誕生させました。その後、オフィス空間などを仕切ることで、日本の働く環境づくりに貢献してきました。



1988- 間の機能・表現を追求する時代

コマニーはパーティション専門メーカーとして、お客様の声に真摯に耳を傾け、パーティションによって実現できる機能や表現の可能性を最大限に引き出し、空間づくりへの貢献を広げてきました。

間の機能

パーティションは、空間に新たな機能を与えます。フレキシブル性、遮音性、安心・安全などの機能をもち、生活様式や産業の変化に対応しながら、多様な空間づくりに貢献してきました。

間の表現

パーティションにより仕切り方を変化させることで、空間のもつ表情を多彩に表現することができます。ときには華やかに、ときには落ち着いた雰囲気。パーティションによる空間づくりは、利用する「人」の五感に伝わり、生活をより豊かにしてくれます。



2019- 間づくり、人づくりの時代へ

社会課題・環境変化に対応した 新しい価値創造の時代へ

私たちは「間づくりでEmpower all Lifeを実現する」という目標実現に向け、これまで築き上げてきたパーティションの技術をさらに発展させていきます。「間づくり」を通じて様々な社会課題解決に取り組み、「人」がより豊かな人生を送るための環境づくり、人づくりに貢献しています。



「間づくり」という言葉の誕生秘話

私たちにしか描けない独自のビジョンが浮かび上がることを狙いにワークショップを開催した時のことです。私たちが望まない「悲しいパーティション」というテーマについて従業員で話し合いました。これまでの「空間ビジネス」や「間仕切り」に対する違和感や不満を「マジ切れる」という表現で描き出し、それがコマニーらしくないと感じたことがきっかけで、「間仕切り（間を切る）」の反対である「間づくり（間をつくる）」という独自のキーワードが生まれました。

「間づくり」は、単なる空間を超えて、人々がどんな体験や感情をもつかを重視するもので、人間中心設計やデザイン思考といった考え方に合致します。これにより、コマニーらしい特性や価値観を反映した独自の方向性が確立されました。

コマニーで生まれる、人の幸福を中心とした間づくり

コマニーの社内では、相手を幸福にするための間づくりがいたるところで行われています。
「人を中心に考える」をカタチにしてきた私たちのエピソードを紹介します。

Episode 001

白線を踏んで 駐車する

車に乗り降りする

人に配慮した間づくり

コマニー本社の駐車場では、タイヤで右の白線を踏んで駐車します。世間的にはあまり見かけない駐め方ですが、あえて線に合わせることで車を均等に駐めることができます。車に乗り降りする「人」に配慮した間づくりです。



働く仲間のよろこびを

大切にする間づくり

従業員が誕生日を迎えると、コマニーのオリジナルグッズが届きます。これはコマニーが支援しているカンボジアで作られたもので、現地の方の就労支援にも繋がっています。大切な誕生日を、こだわりの品でお祝いしたい。働く仲間のよろこびを大切にしたい間づくりです。

Episode 002

誕生日には こだわりの品を

Episode 003

貢献を実感して 幸福感に繋げる

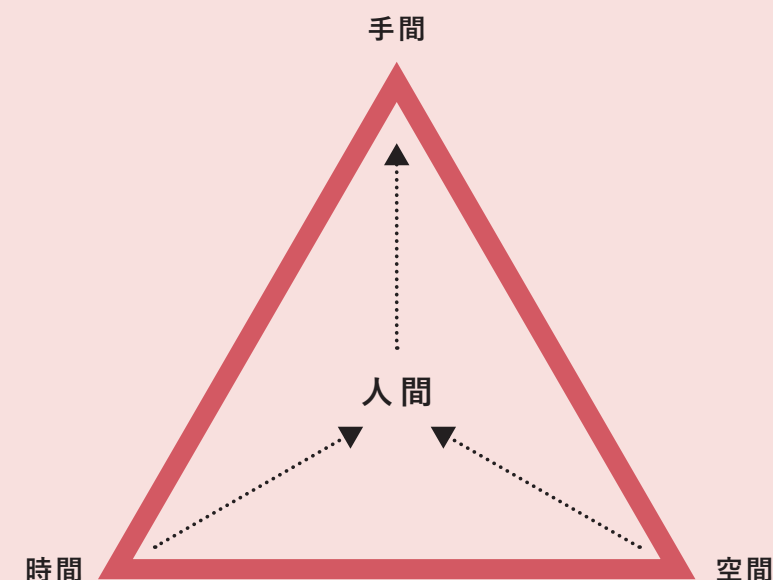
幸福が

連鎖する間づくり

オフィスに設置されたウォーターサーバーは、利用した金額がカンボジアのおかゆ給食の支援にあてられます。さらに容器を自宅から持ってくることで、ペットボトルのゴミを削減できます。日常のふとした行動を貢献へ繋げていくことが、従業員の幸福感にも繋がります。



間づくりモデル



間づくりとは？

「間（二つ以上の要素がある場合に生成される関係性）」をより良い方向に整えると、「すぐれた間」が生成されます。コマニーでは、このように「すぐれた間を生成すること」を「間づくり」と定義し、その可能性を追求しています。

「間づくりモデル」は、多様な意味をもつ「間」を扱ううえで、すぐれた間を生成するための考え方です。「人間」を中心に「時間」「空間」をとらえ、それにどのような「手間」をかけるかによって、様々な間が生まれます。これらの要素を大切に「間づくり」の実績を積み上げていきます。

どのような変化が起こる？

「人の幸福」を中心に考える間づくりを行うと、その行動は相手をよろこばせることができ、同時に相手から求められるものに変わります。その要望を受け、私たちはひと手間をかけてさらに良いものを提供しようと努力し、相手はさらによろこびが増していきます。現代は効率追求の代償として、思いやりや心遣いを感じられるために必要な「手間」までもが省かれてしまっているのではないのでしょうか。相手に幸福になってもらうために、どれだけのひと手間をかけられるか。ここに間づくりの価値があると考えています。

Letter 2

私たちが目指す未来

私たちが目指す未来。
それは一人一人が^{しあわせ}光り輝く幸福な世界です。
これだけ物やサービスがあふれているのに、
幸福を実感していない人がたくさんいます。
真の幸福も実現するもの、それはひょっとして
目に見えないけれど大切なものなのではないでしょうか。
人と物。人とシステム。人と人。
二つ以上の要素が生み出す「間」こそが、
幸福の本質だと考えています。
相手の幸福を願って行動できる人が世界中に増えたら
とても美しく素晴らしい未来が実現できると思いませんか？
「Empower all Life」すべての生命をカブける。
これは、私たちが2030年に実現したい姿です。
は大すぎて、本当に実現できるの？と思われるかもしれませんが。
それでも私たちはその実現を信じて、前に進んでいるのです。

 **GOMANY**
Empower all Life

Empower all Life

一人一人が光り輝く社会に貢献

私たちが子どもの頃、「なぜ大人は戦争をするの？」

「なんで人は自然環境を破壊するの?」「食べ物が無くて困っている人がいたら、
余っているところから送ってあげればいいのに…」といった素朴な疑問や、
純粋な想いがあった。いつしか時が経って大人になり、現実の社会を知り、
忙しい生活に追われる日々。そんな子どもじみた考えは、通用しないのだろうか…

いや、それは違う。

「Empower all Life」

直訳では「すべての生命を力づける」となるが、

これには世界中の人間だけでなく、
地球に生きるすべての生命や自然環境と調和 (harmony) する
共存共栄を目指す姿として想いをこめた。

私たちコマニーは「間づくり」とおしてすべての人が
光り輝く人生をおくるために、より良く働き、より良く学び、

より良く生きるための持続可能な環境づくり、

人づくりに貢献することで

Empower all Lifeを実現していく。

子どもの頃の純粋な心と、
大人になって培ってきた技術力で。



2030年に目指す姿として、「1億人の Well-being 向上」
「環境負荷 50%削減」を掲げています。
間づくりを通じてコマニーが創出する社会的インパクトから
Empower all Life を実現していきます。

1億人の Well-being 向上

当社の提供している既存商品や新規商品による価値
創造、ステークホルダーとの共存共栄による組み
みによって幸福になった人数を Well-being の向上
とし、2030年までに累積で1億人を目指します。

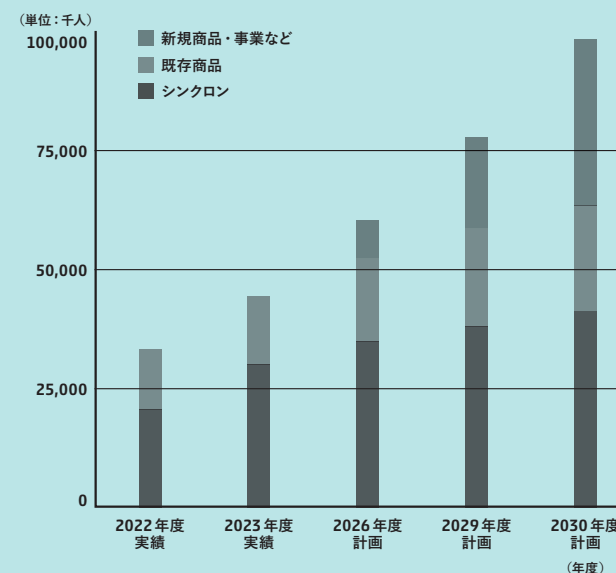
震度7相当に耐える空間づくりに貢献するシンクロン

震災リスクを軽減し、安心・安全の空間づくりを創造することで、精神的安
全性を確保し、Well-being の向上に繋げていきます。

算出イメージ

シンクロン導入数+技術公開による普及数×利用者数

2022年、当社のスタンダード商品のリニューアルを行いました。シンク
ロン機能を標準搭載することにより、シンクロンによる効果数値が
2030年に137万であったことに対し、4,600万人まで実現できると想
定をしています。

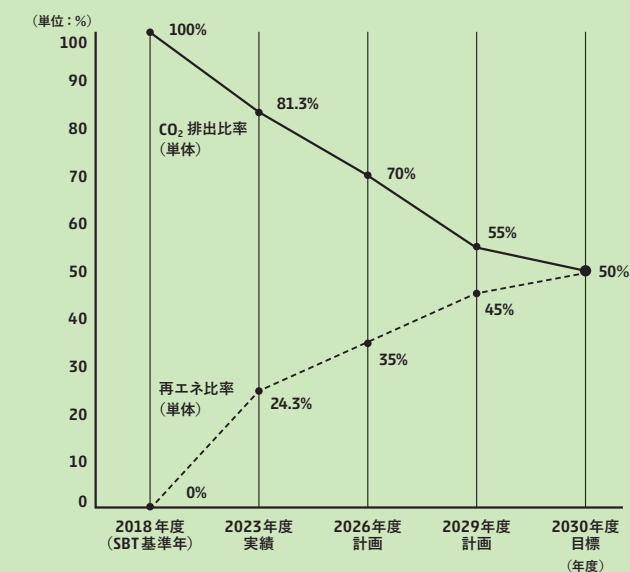


環境負荷 50%削減

当社では温室効果ガス排出量を、2030年までに企
業自身が直接排出した温室効果ガス排出量（化石
燃料、天然ガスなど）と、間接的に排出した温室効
果ガス排出量（電気など）を2018年比で50%削減
することを目指します。

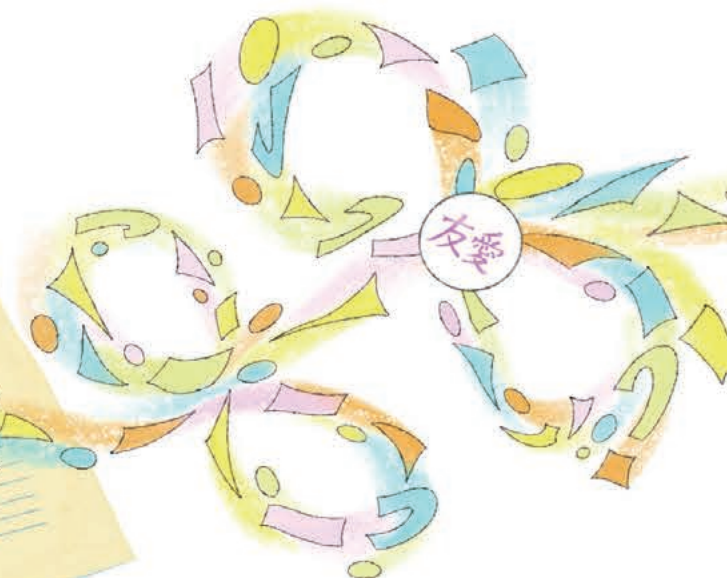
2030年までの KPI

- ① CO₂ 排出量 (単体): 2030年までに2018年比で、
Scope1+2における排出量50%削減
- ② 再エネ比率 (単体): 2030年まで50%、
2040年までに100%



間づくりで Empower all Lifeを実現する

すべての人が光り輝く人生を送るために、
より良く働き、より良く学び、より良く生きるための
持続可能な環境づくり、人づくりに貢献する



「友愛」の心をベースにする

仲間に対して家族のように
親愛の情をもって接し、
互いの成長を願って切磋琢磨していく
「友愛」の心で関係性を築きます。

「間づくり」を実践する

友愛の心をもった仲間とともに、
相手を幸福にするための
「間づくり」を実践していきます。
さらに社外にもその輪を広げ、
間づくりで共存共栄を目指す
パートナーを増やしていきます。

技術革新で社会に貢献する

SDGsのGoal9「産業と技術革新の
基盤をつくろう」を中心として、
私たちがつち技術を上昇させることを通じて
社会に貢献していきます。
今まで解決できなかった様々な物事を、
「間づくり」という新しい視点で
技術革新を起こすことによって、
解決へと導いていきます。

COMANY ∞ (メビウス) モデル



「間づくりで Empower all Life を実現する」というムーンショットに向けて、私たちのすべての活動の基となるのが「COMANY ∞ (メビウス) モデル」です。

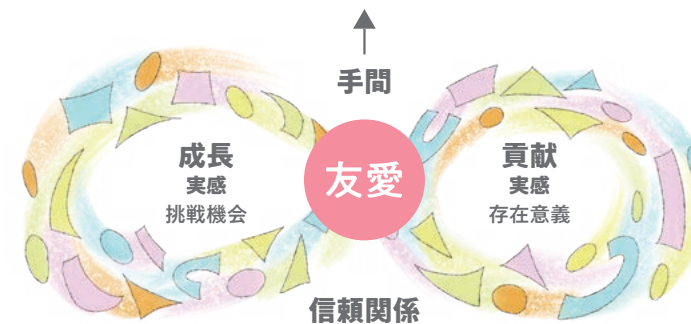
コマニーの「間づくり」を中心に人と人が繋がり合い、同じ未来を描くパートナーとなり、その輪を循環させていきます。

その循環の中で、自分の個性や意思を輝かせることで、光り輝く Empower all Life の世界に向けて大きくスパイラルアップしていきます。

さらに地球環境や社会課題にもこの循環を展開することで、持続可能な社会の実現に貢献し、企業価値を最大化していきます。

一人一人の意識領域から地球規模まで、幅広いスケールで貢献していくために、コマニーの活動はこのモデルを基として、様々な形で派生していきます。

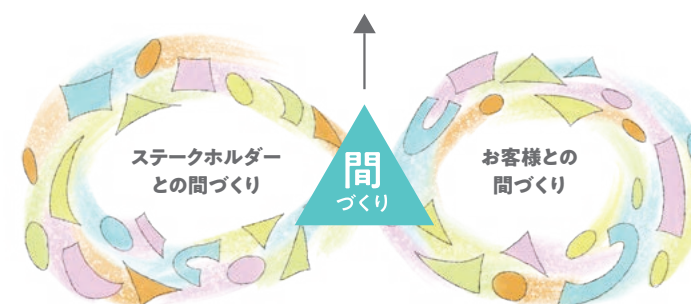
幸福 (Well-being)



幸福の定義

コマニーでは、「幸福=人道と友愛に生きること」と定義しています。「人道」とは、自分が貢献したいこと(使命)を明確にし、そこに向かって成長することです。「友愛」とは、仲間に対して家族のように親愛の情をもって接し、互いの成長を願って切磋琢磨していくことです。信頼できる仲間とともに成長と貢献を実感していく過程そのものが、幸福 (Well-being) に直結していきます。

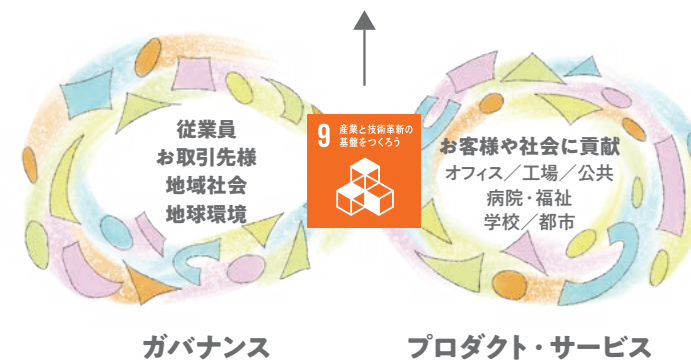
Empower all Life の実現



間づくりモデル

「間づくり」を通して、人と人、人と社会などの関係性をより豊かにしていきます。表面上の課題ではなく、ステークホルダーやお客様が本当に必要としている本質的な課題を解決するために、間づくりの視点で人に寄り添い価値を提供していきます。そして一緒に間づくりするパートナーの皆様とともに、社会課題の本質を解決し、間づくりで Empower all Life を実現していきます。

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献する



COMANY SDGs ∞ (メビウス) モデル

SDGsを経営に実装し、社会課題を解決することを通じて企業価値を最大化し、私たちの目指す「関わるすべての人の幸福に貢献する経営」を行うために作成した価値創造モデルが「COMANY SDGs ∞ (メビウス) モデル」です。プロダクト・サービス(右側)は私たちの事業領域やお客様、ガバナンス(左側)は各ステークホルダーを表しています。

リスクと機会

私たちを取り巻く環境は、日本の少子高齢化や人口減少といった経済縮小の流れ、気候変動などの地球環境の変化による影響、一方で幾何級数的に加速する技術革新など、まさに先行きが見通せない「VUCAの時代」にあります。

私たちは持続可能な社会を形成するとともに、人が真に Well-beingであることを実現するため、事業を取り

巻く環境を認識し、中長期の課題として4つのメガトレンドを分析しています。リスク要因を洗い出すとともに将来の事業創出の機会を整理し、4つの取り組むべき課題を設定しました。私たちは、地方創生を推進する環境提案や、地域コミュニティの活性化、時間や場所にとらわれない働き方に対応した環境づくりを機会として、地域格差の是正を行い、①自立分散型社会への

取り組みを推進します。また、人口減少や労働人口減少、地域格差など、日本の大きな課題に対して、②ダイバーシティ & インクルージョンによるイノベーション促進を目指しています。技術の進化に伴いDXが進展する中、私たちはこれらに対応した製品開発やサービス提供を行い、③技術革新による空間価値の向上を推進します。さらに、気候変動や自然災害による人命被

害や生産活動の停止といった課題に対して、BCM/BCP対応の展開や、地震に強い建築資材の研究開発、環境配慮型商品の開発を進め、④環境保護や防災・減災などへの対応力向上を図ります。これらの取り組みにより、私たちは社会課題の解決に資する事業展開を目指します。



一人一人が光り輝く社会の実現に貢献

私たちが目指す企業像は、これまでのように大量生産・大量消費による効率のみを追求する姿ではなく、「持続可能な社会の実現や、関わるすべての人の幸福に貢献し、心豊かな世の中をつくっていくこと」です。かけがえのない一人一人の人生が自分らしく光り輝きつつ、人と人との繋がりがより深まっていくような社会づくりを目指し、取り組んでいきます。

主要指標

FY2021

FY2022

FY2023

FY2024-2026

FY2027-2029

2030年への
ムーンショット

Empower all Life

コマニーが創出する
社会的インパクト

1億人の
Well-being 向上

環境負荷
50% 削減

FY2030

自立分散型社会
への取り組み

働く場の選択肢による
ストレス軽減

2万人

4万人

6万人

11万人

- 場所を選ばない多様な働き方の提案と展開
- 社内U／I／Jターン促進

17万人

- 地方創生による自立分散モデル事業への取り組み

30万人

自立分散モデル事業の発展
全世代交流型のまちづくり

ダイバーシティ &
インクルージョンに
よるイノベーション
促進

ユニバーサルデザイン商品利用者貢献

1,155万人

1,212万人

1263万人

医療福祉空間価値向上

231万人

243万人

259万人

女性管理職比率

6.6%

6.1%

7.9%

女性従業員比率

18.9%

20.4%

20.7%

障害者比率

2.3%

2.2%

2.2%

1,520万人

310万人

13%

23%

2.7%

1,800万人

380万人

18%

28%

3%

1,923万人

400万人

20%

30%

3.5%

技術革新による
空間価値の向上

新商品開発

—

—

—

300万人

700万人

1,300万人

新規事業

—

—

—

5万人

300万人

1,380万人

既存商品の改良改善

—

—

—

500万人

1,000万人

1,200万人

モノづくり・プロセス改革
による生産性向上

—

プロジェクト発足

—

生産性向上による顧客満足への貢献

環境保護や防災・
減災などへの
対応力向上

災害時リスク軽減人口

11万人

2,040万人

2,874万人

3,600万人

4,350万人

4,600万人

感染症被害リスク軽減

1.5万人

2万人

2.5万人

4万人

6万人

7万人

エコ商品比率

55%

51.6%

72.6%

85%

95%

100%

温室効果ガス排出量

91%

91.2%

81.2%

70%

55%

50%

再生可能エネルギー利用率
(再エネ100宣言 RE Action)

5.4%

20.1%

24.3%

35%

45%

50%

間づくり研究所
実現を支える

による基礎研究
DX 投資

Letter 3

間づくりで変わる世界

私たちは「間づくり」で幸福な世界を創り出しています。
「間づくり」って大掛かりなものに感じるかもしれませんが、
実は誰でも今すぐに始められるものなんです！

あなたの周りにいる人、モノ、時間、空間。
少しだけ間づくりを意識することで、
目の前の世界が大きく変わります。

コマニーが間づくりに取り組み始めて約1年、
様々な間づくりが生まれました。
そしてコマニー社員と一緒に取り組むパートナーの表情が、
みるみる変わっているのです。

あなたにもできる間づくりがたくさんあります！
一緒に間づくりしましょう！

 **comany**
Empower all Life

Pitch & Park

Pitch とは、サッカーのピッチのように、それぞれの役割やポジションが決められており、効率向上に最適化された従来型のワークスペースです。

一方 Park とは、公園で道具を使って遊ぶように、同じ目的や気分の人々が集まり、偶発的な交流や出会いが生まれ、創造性を刺激するワークスペースです。
この2つの効率性や創造性を、同じ空間の中にシームレスに共存させる、新しい間をつくる考え方が Pitch & Park です。



はたらく目的に応じたはたらく環境の選択肢を

「はたらく」に対する考え方が多様化する中で、ワークスペースのあり方にも変化が生まれてきています。従来は「作業効率」や「設備」を重視した環境が主流でしたが、今後はそれにプラスして「創造」や「交流・出会い」という考えが付加され、そのバランスも変わっていきます。そして、当然のことながら業種業態や規模、企業理念によってもワークスペースのあり方は変わっ

てきます。テレワークという選択肢が定着する一方で、オフィスに集う目的や意義を見直した時に生まれたのが『Pitch & Park』です。
はたらく目的に応じて選択ができることの重要性に着目し、「はたらくをデザイン」できることが間づくりの一環であると考えています。

「はたらくをデザイン」する『Pitch & Park』アイテム

コマニーでは、このような変革期に対応した商材を取り揃えています。

それは新製品開発のみならず、既存製品のブラッシュアップも絶え間なく行い、お客様の求める様々なオフィス環境実現に向けて柔軟に対応していくことを可能にします。



境界が生む間をそこに

FLOAT DP (フロート DP)

FLOAT DP がもたらす視覚的な区画が自然と結界を生み、新たな間を創出させます。その空間は可動的であり、用途に合わせて形を変化させることで意識的にも間の創出ができます。フレームをデザイン的にあえて出すことで生み出す価値を提供しています。

オフィスに新たな

「コミュニケーションの森を」

Tomariki (トマリキ)

Tomariki はデスクや照明が付いた、床と天井を繋ぐポール形状のシンプルな商品です。オフィス内の様々な空間を手軽にオープンなワークスペースやミーティングスペースにすることができます。Tomariki はこれからの「はたらく」に一石を投じる間づくりプロダクトとして、人との偶発的な出会いを誘発し、通りの他者とも会話が生まれる、まさに「コミュニケーションの森」をオフィスにつくります。



人と人とを繋ぐ間づくりで、

オフィスににぎわいとやすらぎを

Xis-Frame (エクシスフレーム)

Xis-Frame がサポートするのは、カジュアルコミュニケーションで人間同士が真に繋がり、掻き立てられた創造性でアイデアが膨らむような、あたたかい「間」です。4本脚のシンプルな枠に、主力商品の「Xis」や様々なアイテムを組み合わせることによって、ラボ空間、プロジェクトブース、ハドルミーティングスペース、リフレッシュスペースなど、チームを象徴する間づくり、創造力を映し出すような間づくりを実現します。



私たちが提供する「すぐれた間」



技と美を感じる、極上のおもてなし空間
霧島ホールディングス株式会社 ゲストルーム

霧島酒造様の本社に工場を視察に訪れる企業様のゲストルームとして、おもてなしの間を検討したいとのご相談をいただきました。お客様のイメージにふさわしい新商品の「WEDGE」をご提案し、LED組み込みのガラスパーティションに興味をもってください、ご採用いただきました。中間の仕切りには、お客様の人数に応じて広さが調整できる、移動パーティション「DP-60S」もご採用いただき、デザイン性や遮音性においてもご満足いただけました。

設計サイドのご要望にお応えするために技術スタッフと検討を重ねた結果、空間の什器や調度品、さらにはやわらかな日差しとも調和した素晴らしいゲストルームが完成し、お客様に大変よろこんでいただきました。



鹿児島営業所
高浜 大輔



鹿児島工務課
小坪 義春

私たちは、ただパーティションを納入するだけではありません。
間づくりという視点で、様々な付加価値をどのように実現しているのかを紹介します。



ホテルライクな憩いのラウンジ
いちご花京院ビル 共有スペース

オフィスビルの共用スペース構築にご協力させていただきました。ご入居いただいているお客様の満足度向上と、新規での入居促進を目指し、ホテルライクなラウンジ空間を実現しました。貸しミーティングルームのガラスには、電源のON/OFFで視界の切り替えが可能な調光フィルムをご採用いただきました。空室時はラウンジとの開放的な繋がりを保持し、使用時は曇りガラスに切り替えることができるという工夫がされています。有機的なラインやランダム配置のインテリア、ラグジュアリーな空間にマッチするようパーティションにはメタリックブラウン色を採用し、自由な心地よさをもたらしてくれます。この共有ラウンジは、ご入居のお客様に大変好評で、利用率も高く、ゆったりとした時を過ごせる憩いの場となっています。



東京第六営業所
岡本 祥一



東京第六営業課
藤井 真菜



東京第六工務課
小岩 逸郎

私たちは事業としての間づくりだけでなく、「日常の中でできる、相手を幸福にする間づくり」も大事にしています。
あなたにもできる間づくりを探してみてください。



間仕切りだけに
とられない間づくりを！

法人開発部 法人開発課
竹島 美沙貴

今すぐ間仕切りが必要ないお客様でも定期的にご面談していただけるよう、毎月異なるテーマで役立つ情報をまとめた『間づくり Report』を作成し、ご面談時にお渡ししています。幅広い情報交換のきっかけとなり、多くのお客様によるこんでいただいています。



仕事の先を
イメージする！

生産技術部 生産技術三課
太田 迅

保全・改善・設備投資など様々な仕事内容がありますが、どれも共通して「この仕事の先にはどんな人が待っているのか」を意識しています。”生産技術”だからこそできることは何かを考え、会社やお客様に貢献していきます。



西日本施工技術部 関西施工技術課
内藤 啓介

「One for all All for one」この言葉と間づくりが繋がっていると感じています。仲間と信頼関係を築くために、「ありがとう」「ごめんなさい」という気持ちを言葉にする。そしてチーム全員でお客様を魅了する施工・管理を実現することが、間づくりに繋がると考えています。



仲間とのコミュニケーションを大切に
事実を捉え法弱の思考・視点で
貢献する。

総務部 法務課
古野 智朗

法務や困りごとの相談に対して、時系列に沿った事実確認を行い、原因や分からないことを明確にして解決に繋げていくことを心掛けています。お互いにしっかりコミュニケーションを取り、情報だけでなく声の調子や雰囲気を読むことも大切にしています。



相手の立場になって
考える努力をする！

研究開発本部 製品開発一課
北川 達基

関連部門の作業内容を知り、仕事のやりやすさや、やりづらさ、どのくらい時間がかかっているのかをイメージすることを心掛けています。相手の立場になって考え、お客様にも従業員にも優しい開発を行っています。



メンバーにウザがら
れども傍にいたい♡

設計部 データ設計課
竹田 めぐみ

責任者として、自席にいないことを心掛けています。一緒に働いているメンバーの様子や困りごとをタイムリーに見て聞くことで、問題解決のスピードとメンバーの「強み」発見からモチベーション向上へ繋がっています。



プロとしての行動を取る！

医療福祉環境事業部 東日本医療福祉環境工務課
中村 元

元請けからの図面チェックをそのまま図面修正するのではなく、エンドユーザーの使い勝手・品質が確保できているか、建具のプロとして判断したうえで図面修正しています。それが工務の存在意義であり、コマーシファンの増大に繋がっています。



「何事も
楽しんで
みんなから
笑顔」

製品完成部 完成二課
坂田 あゆみ

自分らしく仕事をして、大変さを上回る達成感を味わうために、まずは自分が楽しむこと！そのために自分のありたい姿を目指し努力する。他人任せでなく、自ら考案すればおのずと自分の居場所は見つかる。と考えると日々ワクワクを探しています！



間づくり研究所

2023年4月10日（よい間の日）に開所し、活動を開始した間づくり研究所

私たちが行う「間づくり」とは、関係性を整えより良い状態にして価値を生み出していくことであり、「すぐれた間」を生成するための空間をはじめとした「間」のソリューション提供を目指します。この「間づくり」という言葉を追求し、実践する母体として2023年4月10日を「よい間の日」と設定し「間づくり研究所」を設立しました。コマニーに集う全員が間づくりする研究員と位置づけ、一人一人が「人間」を中心として「時間」「空間」「手間」を自在に整え、より大きく世の中へ貢献を生み出すために間づくりを追求していきます。

間づくり研究所の活動 4つの柱「IDEA（アイデア）」

コマニーに集う間づくり研究員の活動の軸となる4つの柱を、それぞれの頭文字をとって「IDEA（アイデア）」と名付けました。IDEAの展開を通じて、私たちは「間づくり」という概念を多くの方が「Well-being

な状態を実現していくうえで大切なマインド」ととらえ、「間づくり」を常用語として認識され広く使用されることを目指します。

Input

教育

間づくりカンパニーであるコマニーの従業員全員が「間づくりができる」という状態になることを前提に、「間づくり研修」を実施します。

Dialogue

対話

定期的に関づくり研究会を開催し、共創の場をつくり、新しい知見を公開することで、1+1が5にも10にもなる状態を目指していきます。

Engagement

エンゲージメント

コマニーが開催するイベントにおいて、皆様に「間づくり」を理解していただく機会を提供し、イベント自体も「間づくり」に沿ったものにしていきます。

Action

実践

「はたらく」当事者として仕事の課題を研究テーマとして取り扱い、「間づくり」を通じて解決していくことで、その実績を積み上げていきます。

Input（教育）

間づくりをするための思考法や考え方、実践の方法を、間づくり研究員である全従業員が教育の機会をもって学んでいます。

間づくり研修

間づくり思考を実践するために、自部門における「間づくられて」「間違っていること」「間抜けなこと」を観察して話し合い、新たな課題発見をするために研修を行っています。第1回目の間づくり研修では、間づくりをするうえで最も大切だと考えている「人間を中心とした観察の重要性」を学びました。



Dialogue（対話）

間づくりは一人で行うものではなく、互いの知恵を寄せ集め、対話や議論を通じて、新しいアイデアを生み出していきます。そして定期的に間づくり研究会

を開催し、共創の場をつくり、新しい知見を公開することで、1+1が5にも10にもなる状態を目指していきます。

対話やワークショップを通して共創する「間づくり研究会」

私たちは、仕事を通じて生じる様々な課題を研究テーマとして取り扱い、その成果を共有する場を設けています。また、課題に対する観察から得た洞察を対話する場として、オンライン開催やワークショップ、有識者

による講演など、様々な形式で開催しています。2023年には、開所から5回の研究会を開催し、社内外で共創の場を創り出すことができました。

会議ワークショップ



食堂のあり方を考えるワークショップ



様々な有識者と「間」について対話するエクストリーマーインタビュー

エクストリーマーインタビューでは、「間」や「間づくり」をテーマに、多様なバックグラウンドをもつ専門家たちと深い議論を交わしています。Well-beingと予防医学者の石川善樹さんとは「間」の重要性やその役割について、また写真心理学を用いた対話プログラム「miit（ミート）」の開発者、檜侑子さんとは「間」の実践とその効果について学びました。これら一連のインタビューは、私たちの生活や社会に対する新たな視点や気づきとなり、間づくりの追求に貢献します。



間づくり研究所WEBページにてインタビュー内容をご覧ください。

Engagement (エンゲージメント)



私たちは、ステークホルダーの皆様と一緒に「間づくり」を発展させたいと考えています。そこで、コマニーが開催するイベントにおいて、皆様に「間づくり」を理解していただく機会を提供し、イベント自体も「間づくり」に沿ったものにしていきます。

オルガテック東京 2024 ——間づくりを世界へ——

オルガテック東京 2024 では、間づくり研究所よりブースのテーマを「光間-CO GEN-」とし、お客様と光の間を彩る「間づくりの体験」をご一緒する参加型の展示を行いました。

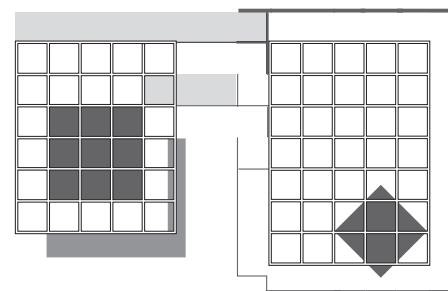
来場者の皆様には二つの問いかけをご用意し、その答えを探していただきながらお客様自身に楽しく能動的に参加していただくことで、展示ブースが鮮やかに彩られていく展示となりました。

今回のオルガテックのテーマである「SHIFT DESIGN」も

また、時代の変化とともに私たちの働き方を自身で変化させ、デザインしていくことだと考えました。コマニーでは人を中心に空間や時間にどのような手間をかけるかによって、その人がどのような価値を生み出すのかをお客様と一緒に考え創造しています。そして、今回の展示はまさに来場者の皆様とともに間づくりに関する答えを探し、「はたらく」をシフトするインスピレーションを感じていただくことができました。

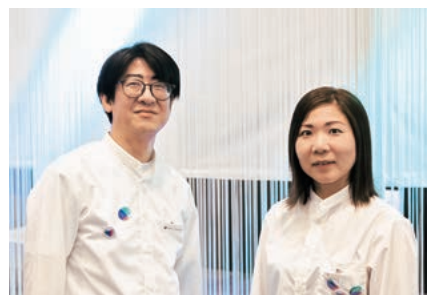
ブースデザイン

ブース全体は、「母屋」と「離れ」といった昔ながらの日本建築をベースに「間」を配置しました。空間全体はホワイトとグレートーンでまとめ、日本の美しい四季や天候の移り変わりを表現した光源や短冊の色が印象に残るように配色を行いました。



離れ

母屋



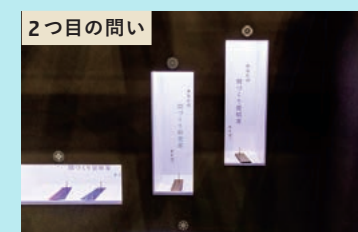
ブース設計
奥村 陽一郎
ブース企画
籠谷 のぞみ

多くのお客様より、「働き方をシフトするようなインスピレーションを感じることができた。」というお声をいただくことができました。

お客様と一緒に 光間の間づくりを実践



1つ目の問い
お茶の間（受付）
パンフレットでは、4つの心理機能を用いた性格診断を行っていただきました。



2つ目の問い
間いの間
間まつわる問いが書かれた短冊を受け取っていただきます。



能動的に間を探す
母屋
短冊に書かれた間を探しながら、間づくりに関するインスピレーションを探していただきます。



それぞれの短冊が光間を彩る
母屋
インスピレーションを感じた間に、来場者の方の手で短冊を結んでいただきます。

● Action（実践）

“当たり前”を覆す「間づくり研究」

間づくり研究所では「全従業員が間づくり研究員」です。日常の中で起きる疑問や違和感、変化させたいことを自由にテーマとして設定し、チームを組んで研究しています。そしてこれはただの研究ではなく、「仲間を幸福にするための研究」です。“世の中の当たり前”は、間づくりによって変えられるのです。

01

会議改革



ポジティブな気持ちで参加できる

間づくられた会議を増やしたい！



経営企画部
広報課
木田 加那子

「会議」と聞くと、疲れる・時間が取られる・発言しづらいというようなネガティブな印象をもっていないですか？多くの人が毎日参加する会議だからこそ、もっと楽しく効果的に開催したい！というのが、会議改革を始めたきっかけでした。社内で行われている会議について観察し、見えてきた課題を解決するために「会議のガイドライン」を作成しました。導入後は、会議が進めやすくなった！メンバーの参加意識が上がった！など好評をいただいています。

02

男性育児休業×Well-beingの向上の研究

男女ともに育児休業を取得できる

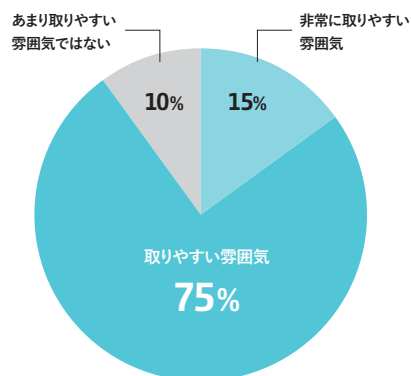
職場環境をつくりたい！



人事部
銭田 真一

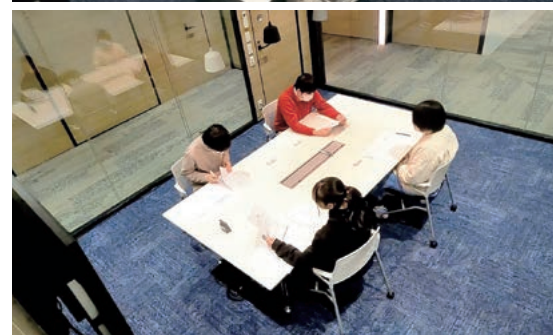
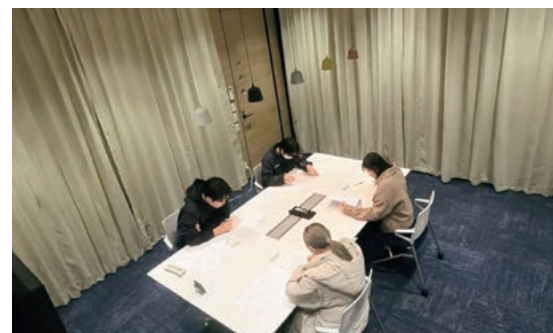
コマニーでは、男性の育児休業取得（1ヶ月以上）を必須とする制度を導入しており、社内ではこの制度による育休取得推進のため、チームでフォローするなどの風土が定着してきています。その一方で、業務との兼ね合いでタイミングが合わず取得できないパターンもありました。この制度によって幸福度は向上しているのか？もっと改善することがあるのではないかと感じたのが、研究を始めたきっかけでした。実際に制度を利用した従業員と研究チームを組み、職場の雰囲気や休業中の様子など生の声を取り入れながら改善を進め、更に男性育児休業取得を促進し、今後も取得率100%を維持していきたいと考えています。

Q 育児休業取得時の職場の雰囲気はいかがでしたか？



03

オフィス環境とコミュニケーションおよび作業効率に関する研究



みんなが活き活き働ける

オフィスのあり方を追求したい！



研究開発本部
研究開発課
下野 晃法

新型コロナウイルスの影響でテレワークが推進され、働く場所が多様化しました。働く場所の選択肢が増えたことで、出社することの価値を改めて感じた方も多いのではないのでしょうか。そこで、改めてオフィスのあり方を見直すため、会議室の開放度がコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、執務室のレイアウトが作業効率やストレスにどのような影響を与えるのかを調べています。これらの研究を進めることで、ますます多様化する働き方に柔軟に対応できる間づくりを推進していきます。

04

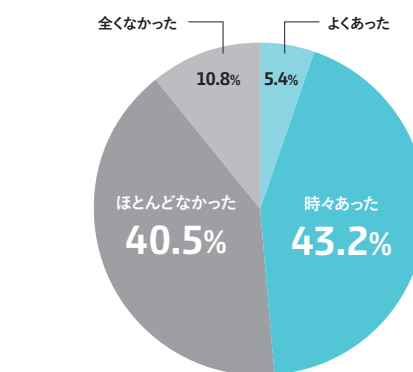
生理現象にまつわるストレスを軽減する職場環境をつくりたい！



総務部
総務課
増野谷 美結

女性従業員にアンケートを取ると、なんと半数近くの方は生理用品がなくて困った経験をしていました。しかし、生理は隠すもの、女性として生理用品は用意しておくものというアンコンシャス・バイアスがあり、女性同士でも話すことなく個人で解決している人もいました。この活動をきっかけに、女性だけでなく男性の生理現象にまつわるストレスも軽減するため、生理用品の無償設置に加え、男性トイレには尿漏れパッドを捨てられるようにサニタリーボックスの設置を始めています。

Q 生理用品を会社を持ってきていない時に、生理が始まった経験はありましたか？



女性用トイレに無償設置された生理用品。少しでもストレスを軽減したいという想いから、見た目の可愛らしさにもこだわっています。

“工場の当たり前”を変化させ、
一緒に働く仲間をもっと幸福にしたい！



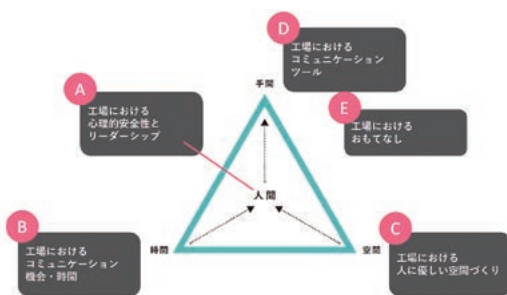
世間一般の工場は、効率や採算性を中心に設備や人を配置します。しかしコマニーの工場は、間づくりによって「人を中心としたWell-beingな工場」に変わり始めています。「間づくりを通してもっと幸福に働きたい!」という熱い想いをもちた52名の工場メンバーが、テーマごとにチームを立ち上げて研究を行っています。

工場メンバーの本音から生まれた、
幸福に働くための間づくり

工場内にコミュニケーションの拠点をつくる
工場のメンバーは他部署とのコミュニケーションが少なく、情報を交換できる場が不足していることが課題でした。そこで、工場内に誰でも利用できるカフェスペースを設置し、気軽にコミュニケーションを取ることができる拠点を作る計画を進めています。

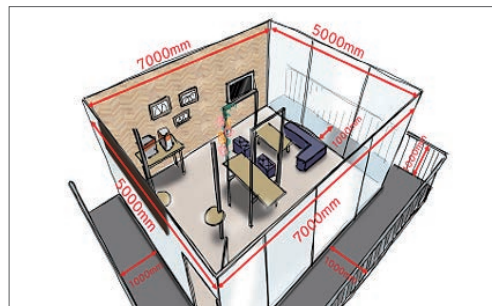


見学されるお客様に最高のおもてなしを
工場を見学されるお客様に、技術や品質へのこだわりをお伝えし、コマニーの魅力を感じていただきたい。そのような想いから、「おもてなし」を意識した工場見学を研究し始めました。お客様に合わせたウェルカム動画や体験型の見学を企画し、好評をいただいています。



〔5つの研究テーマ〕

- グループA 「工場における心理的安全性とリーダーシップ」
- グループB 「工場におけるコミュニケーション機会・時間」
- グループC 「工場における人に優しい空間づくり」
- グループD 「工場におけるコミュニケーションツール」
- グループE 「工場におけるおもてなし」



人に優しい働き方を実現する

「工場といえば力仕事」というイメージを覆すために、現場で発生している重筋作業について調査しています。様々な作業で体にかかっている力を計測器で数値化したところ、長時間にわたかなりの負荷がかかっていることが分かりました。現場で起こっている様々な課題を深く観察しながら、コマニーの工場に合ったシステムの導入を検討しています。



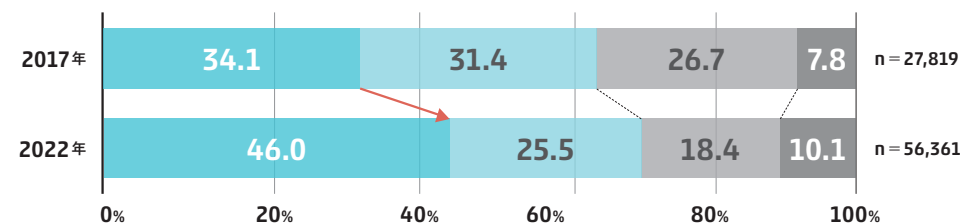
すべての人が安心して使える
トイレをつくりたい！



研究開発本部
研究開発課
高橋 未樹子

Q トランスジェンダーが性自認に沿って
トイレを使用することに抵抗はありますか？

■ 抵抗はない ■ どちらかといえば抵抗はない
■ どちらかといえば抵抗がある ■ 抵抗がある



世界でも最高レベルと言われている日本のトイレにおいても、まだまだ取り残されている方がいます。その代表的な人が、「出生時に付けられた性別」と「自認する性別」が異なるトランスジェンダーです。その対応として、男女共用である「オールジェンダートイレ」を設置するところも少しずつ増えてきて

いますが、ハードの整備だけでは解決できません。性的マイノリティに対する認識、意識を変えていくことも大切です。性のあり方や障害の有無に関わらず、誰もが快適に安心して使えるトイレ環境について、これからも考えていきます。

歴史とコミュニケーションを紡いで
従業員が行きたくなるオフィスをつくる！



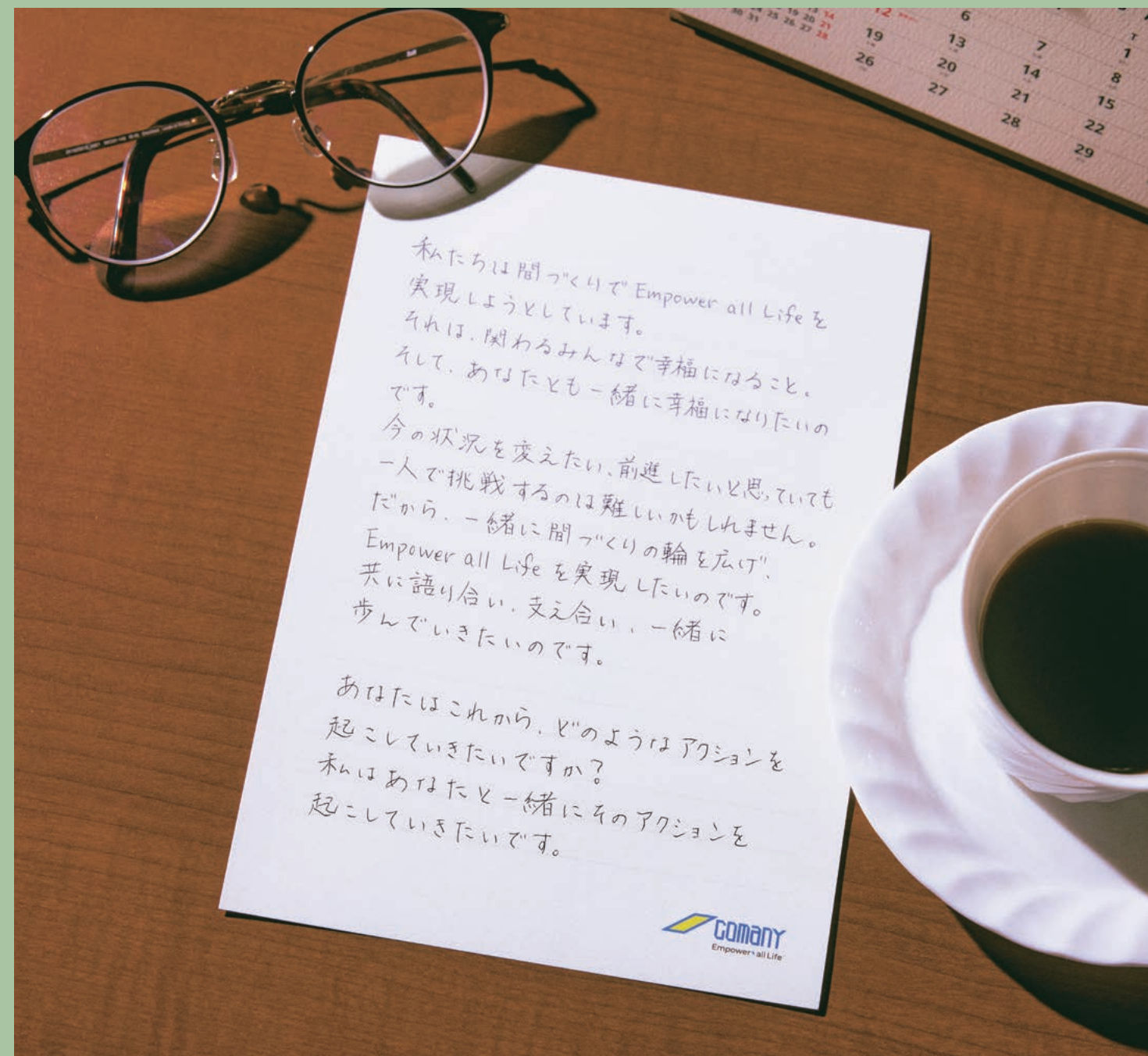
人事部
人財開発課
河島 祐貴

本社事務所棟リニューアル計画に伴い、様々な部門から有志あるメンバーが集まり研究がスタートしました。ただのオフィス（働く場）ではなく、コマニーの歴史を紡ぎ、一人一人の個性が織りなす「従業員が行きたくなるオフィス」を目指しています。リニューアル前に従業員の皆さんに、オフィスの違和感や理想の働き方についてヒアリングしました。デスクの配置や動線など問題点を深く観察し、どのようなひと手間を加えるかメンバーで議論を重ね、2024年6月にリニューアルオープンしました。今後は従業員がさらに交流し合い、新たな気づきを得ながらみんなでオフィスをアップデートしていきます。私たちの間づくりはまだこれからです。



Letter 4

ステークホルダーの皆様と 歩む未来





社会・お客様から必要とされ、信頼に満ちた企業であるために



私たちは、「企業は世の中の幸福に貢献するために存在すべきである」という信念に基づき、私たちに関わるすべてのステークホルダーの皆様の幸福に貢献できる経営を目指し、「サステナビリティ方針」を制定しています。この方針では、私たちに関連するステークホルダーは誰であるか、そしてそれぞれの幸福にどのように

貢献するかを明確にし、経営施策へ具体的に落とし込めるようにしています。この方針のもと、ステークホルダーの皆様と幸福になるための間づくりを実施し、かけがえのない一人一人の人生が自分らしく光り輝く中で、人と人との繋がりがより深まっていくような社会づくりを目指し、取り組んでいます。

コマニーグループサステナビリティ方針

私たちコマニーグループは、企業は世の中の幸福に貢献するために存在すべきであるという信念のもと、創業当初より貫いてきた人道と友愛の精神をもち、幸福にすべきすべてのステークホルダーの皆様、社会全体との共存共栄のうえに持続可能な未来を築いていくことに努めてまいります。

1. お客様 お客様第一の追求

私たちは、お客様に感動と満足を得ていただくため、商品の開発から販売・生産・施工・サービスに至るまで、常にお客様を第一に考え、安心・安全で高品質な、環境に優しい商品をご提供することによって、快適空間・機能空間を創造してまいります。

2. お取引先様 お取引先様（サプライヤー等）とのパートナーシップ

私たちは、お取引先様とともに技術を高め、世の中の成長・発展に貢献するため、誠実で公正な取引を旨とし、パートナーとして共存共栄の関係を築き、最適な商材を安定的に供給することを目指してまいります。

3. 地球環境 地球環境との共存

私たちは、後世に美しい地球環境を残すため、「パーティション」のライフサイクルに配慮した商品展開を推進するとともに、脱炭素社会・循環型社会、生物多様性の保全のため、生産活動における環境負荷を低減し、汚染の予防に努め、自然と共生できる企業活動を推進してまいります。

4. 従業員 人間性尊重の職場づくり

私たちは、すべての従業員が主役となり、働きがいと成長を感じられる職場環境を実現するため、一人一人の人間性を尊重し、活躍の場を与えられる制度づくりと、常に明るく前向きに活動できる組織風土づくりに努めてまいります。

5. 地域社会 社会貢献活動

私たちは、将来にわたって子どもたちに明るい未来を残すため、従業員自らの良心によって主体的に活動することを基本に考え、地域貢献、日本貢献、世界貢献に取り組んでまいります。

6. コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス

私たちは、経営の理念をもとに、企業価値を増大させ、経営マネジメントシステムを継続的に改善し、公正で迅速な意思決定の向上に努めていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。今後も経営の健全性および透明性を確保するために、経営監督機能および法令遵守体制強化の重要性を認識し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ってまいります。



お客様第一の追究

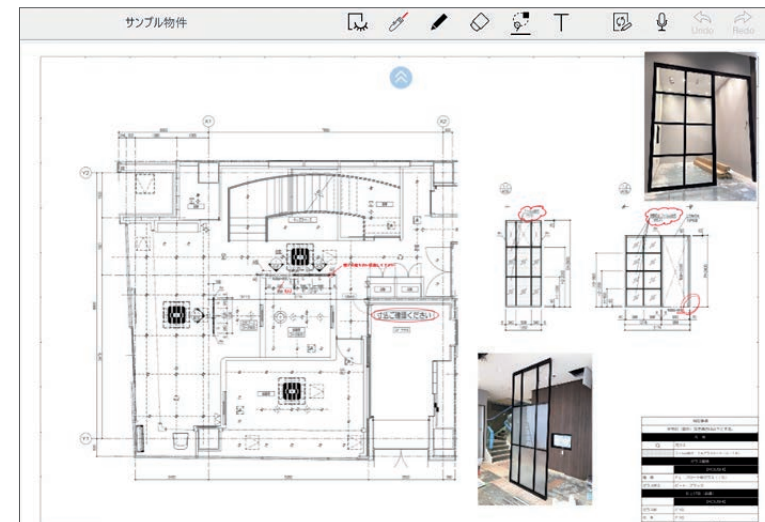
間づくりを通して、
お客様の
Well-beingに
貢献する

多様化する時代において、働き方、ビジネスモデル、価値観が変化の中で、私たちにできることは何か。これからは働く人々がどのような時間を過ごし、どんな価値を出したいか、お客様の要望は十人十色。一人一人のお客様に寄り添い、たくさんのパートナーとともに間づくりを考えカタチにする。

多様化する時代の中で、働き方やビジネスモデル、そして顧客の価値観が大きく変化しています。そのような中で、私たちにできることは何か。今まではお客様の要望に100%でお応えすることを大切にしてきましたが、これからはそこで働く人々がどのような時間を過ごしたいか、どんな価値を生み出したかを一緒に考え、創り上げることが大切だと考えています。

私たちは間づくりで、お客様のWell-beingに貢献することを目指しています。お客様の求める価値に対して、コミュニケーションを活性化する空間づくり、居心地よくストレスなく働ける環境づくり、顧客やビジネスパートナー、地域社会との交流を通じた共創の場づくりなど、従業員同士、社内と社外、企業と地域社会などの関係性をつくるのが「間づくり」であり、それをたくさんのパートナーとともに実現したいと考えています。

お客様と一緒に
実現したい間づくり



写真付きで

残工事を鮮明化

専用ソフトで工事の進捗具合を撮影し、図面上に添付しています。また、写真の上に文字を書き込むこともできるので、残工事の内容を鮮明にデータ保存できます。

お客様の要望をともに実現するために、その場でイメージをカタチにすることを大切にしています。ツールを活用して図面や現場の写真を組み合わせ、情報を瞬時に反映しながらお客様のご要望に合った提案を行っています。また、遠隔地にいる技術者とリアルタ

イムで正確に情報共有することで、その場で提案や不明点の解決に繋がっています。施工管理者は搬入情報の検討も行うことができるため、打ち合わせから納品まで迅速にお応えします。

パートナーと

勉強会を開催

ともに成長し、協力し合える関係性を築くため、販売店様と様々な勉強会を開催しています。スキルアップを通して要望を超える価値が提供できるよう、ともに学びを深めます。



お客様との間づくりを実現するには、パートナーの皆様と同じ未来を描き、ともに考えてカタチにしていくことが大切だと考えています。その第一歩として、うえるコマ『Welcome to Comany』という、コマニーを知っていただくための勉強会を開催しています。勉強会の内容は、コマニーの方針や取り組み、市場の変化や商品についてなど幅

広く、毎年アップデートしていきます。パートナーと情報や知見を掛け合わせることで、間づくりのプロとしてお客様に寄り添い、チームでアイデアを創出していく、そんなパートナーでありたいと思います。そして、困ったときにはお互いに相談できる関係を築くことを大切にしています。

間づくりを一緒に考える
カタチにする

お客様に寄り添ったモノづくり



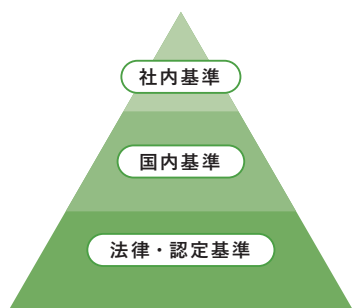
地震や豪雨などの自然災害が常態化しつつある昨今。災害震度7相当に耐える空間づくりに貢献する、高耐震間仕切「シンクロン」の研究を金沢工業大学と共同で進めてきました。震災リスクを軽減し、安心・安全の空間づくりをすることで、精神的安全性を確保し、Well-beingの向上に繋がっていきます。



医療関係者や大学などの専門家と共同で被験者検証実験を行い、健常者や障害者、利用するすべての方にとってストレスなく利用できるユニバーサルデザインのトイレ空間をつくることで、Well-beingの向上に繋がっていきます。



お客様に満足していただくためには、製品の品質が確かであることが大前提だと考えています。性能試験と耐久性試験を繰り返し行い、製品の安全性と品質機能を定期的に評価・確認しています。また、世界基準の燃焼試験機を導入し、不燃認定を取得している製品に対しても定期的な不燃性能試験を行い、定められた性能を保持し続けているかを確認しています。



高品質なモノづくり



表面の素材や色、質感、細部にわたるディテールによって人に与える影響は大きく異なり、空間に与える機能性も変化します。また、環境面やコスト面への視点も含め、お客様とコマーニーにとって最適な色材のあるべき姿を考えて設定しています。海外トレンドや実績について情報を発信するだけでなく、お客様に魅力的な新色や新素材を提案することで、トレンドをつくっていくことを考え製品に取り入れています。



感性を刺激する間づくり



未来の風景を間づくりする



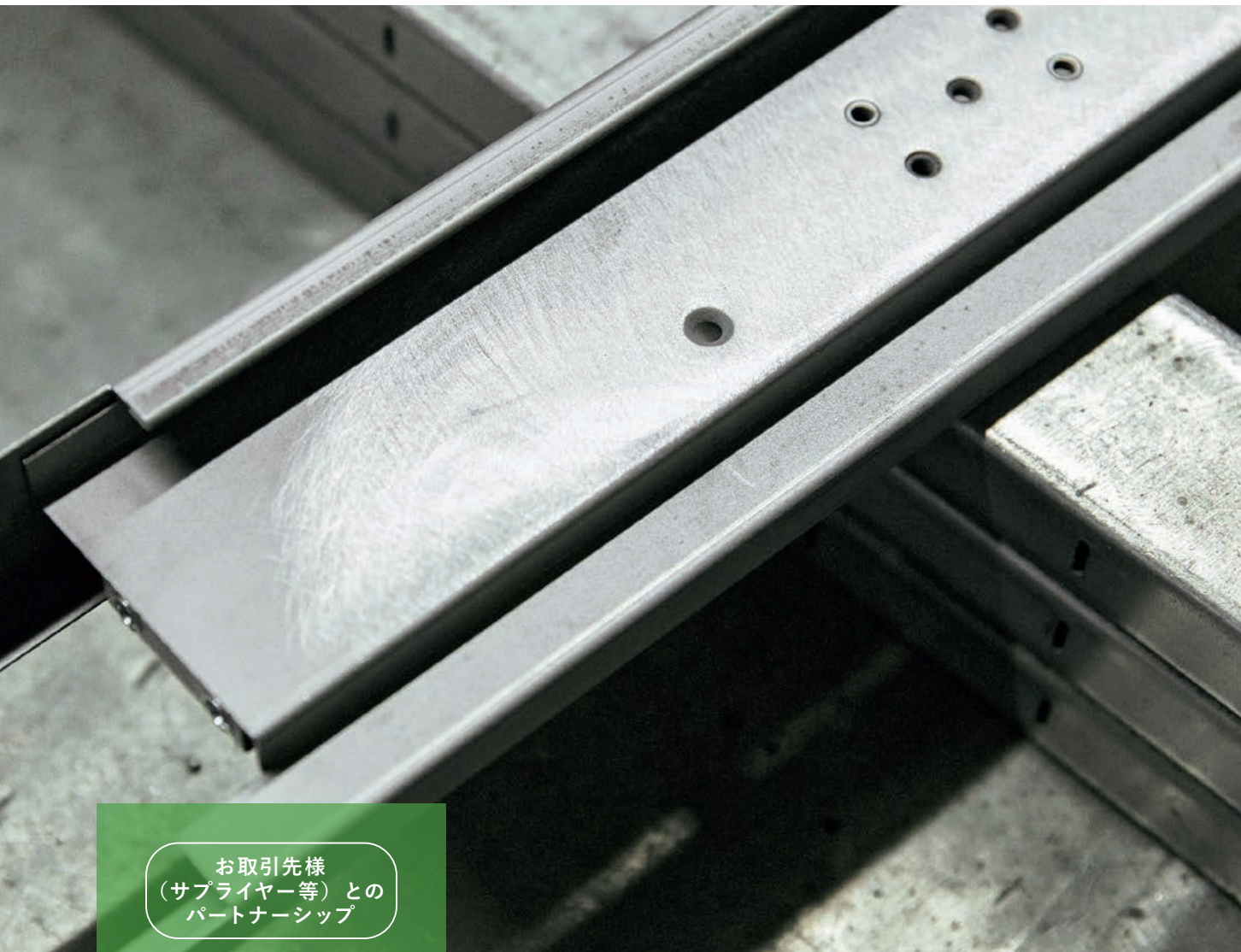
審査委員による

評価コメント

WEDGEは、従来の間仕切り壁から脱却し、これからのオフィスを考える"進化するパーティション"としてデザインされている。これからの多用途化するオフィス空間に対応し、機能のアップグレードも可能な構造となっている。また、特筆すべきは、様々な企業との共創によって実現した機能だろう。進化するDX化やセキュリティ問題、衛生面の配慮など付加価値をこの薄い壁に全て盛り込み、美しくミニマルなデザインに仕上げている点は高く評価した。

未来の働き方、未来のオフィスとはどのようなべきかを考え、開発がスタートしました。そして従来のパーティションの既成概念を変え、パーティションとしての新たな姿

や考え方を取り入れカタチにしました。結果、「2023年度グッドデザイン賞」において、次世代パーティションWEDGE（ウェッジ）が「グッドデザイン賞」を受賞しました。



お取引先様
(サプライヤー等) との
パートナーシップ

お客様の幸福を
ともに実現する
パートナーになる

私たちはお取引先様とともに、「間づくり」を通して世の中への貢献を大きくしていきたいと考えています。私たちが生きるこの時代は、環境問題、人手不足に関する喫緊の課題、紛争や自然災害による環境の変化など、多くの社会課題が山積しています。今後さらに成長発展して持続可能な社会を目指していくためには、志を同じくしたパートナーの皆様と協働し、お互いの強みを活かし合って共存共栄していく必要があると考えています。

お客様が本当に求めるものを実現するために、
そして自分たち自身が幸福になるために。
本音で対話を重ね、お互いを高め合い、
間づくりで共存共栄していくパートナーになりたい。

さらに、お客様が本当に求めるものを実現していくためには、お客様に本当に幸福になっていただきたいという想いで本音の対話を重ね、お互いを高め合っていくことが重要です。その強い想いはお客様のよろこびに繋がり、私たち自身の幸福にも繋がっていきます。同じ未来に向かって歩むビジョンパートナーとしての関係性を深め、お客様の幸福と一緒に創り出すことを通じて、共存共栄の実現を目指していきます。

お取引先様との関係性構築

お取引先様感謝の集い

お取引先様とのより良い関係性づくりのため、2023年2月に資材関連のお取引様をお招きして、「お取引先様感謝の集い」を開催しました。感謝の集いの中では、間づくりカンパニーとして私たちが目指す方向性や経営状況の共有、工場見学や懇親会を行いました。日頃の感謝を伝え合い、お互いについて深く知り合うことで、未来の発展性を模索することができました。お互いの理解を深めることで間づくりに対する賛同をいただき、最近では共存共栄していくための具体的なご提案をいただくことも増え

てきました。今後もお互いに言いたいことがしっかり言え、受け取めることができるパートナーシップの関係性を構築していきます。



お取引先様満足度調査

「お取引先様感謝の集い」にてコマニーの目指す方針・方向性を共有する機会を設けたことで、「お取引先様満足度調査」の総合的な顧客評価ポイントが大きく改善されました。いただいたご意見・ご要望から25件の課題に対し、2023年度は11件の課題解決を実施しました。今後も調査を継続的に実施し、改善を通じて満足度向上を図っていきます。

定期面談の実施

お互いが働きやすく、ムリ・ムダのないモノづくりができるよう、情報共有と意見交換の場として定期面談を実施しています。先行きが不透明な時代だからこそ、お取引先様との対話を通してお互いを知り合うことを大切に、困りごとのヒアリングや技術連携を行うなど、課題解決に向け協働できる関係性の強化を目指しています。



将来にわたり 持続可能な物流体制の構築

物流業界の働き方改革とドライバー不足に関する喫緊の課題として、トラック運転手の労働時間規制適用に伴う物流の「2024年問題」があります。そのような時代の中であっても、持続可能な物流体制の未来を描いていくことで、今後も運送会社から選ばれ続けるコマニーでありたいと思っています。

トラック待機時間への取り組み

トラックの待機時間削減活動については、「入庫時間指定」や「出荷前日までの完成率向上活動」により、削減が図られてきました。
今後は、物流DXを実現することで、待機時間を限りなくゼロにすることを目指していきます。



そのためには、単なる物流機能だけではなく、製造のモノづくりから、搬入・施工現場までを意識した「一気通貫」での改善が必要です。これからもお客様や施工現場からの声を活かし、運送会社など外部の企業も巻き込み、持続可能な物流体制の構築に向けて取り組んでいきます。



これまで

現状、部材類の物流方法は木製パレットの上に載せて運んでいます。これはトラックへの積載時に時間をかけず、トラックの待機時間を削減する狙いがあります。しかしこの方法では、上に重ねて物を載せることができず、トラックの積載効率向上のネックとなっています。



これから

現在コマニーが取り組んでいるのは、「部材用通い箱」を活用した物流方法です。これはトラックへの積み込み時間を削減しつつ、さらに上部に段積みすることができます。トラック積載効率が向上することで、CO₂排出量の削減にも貢献していきます。

積載効率向上への改善

建設業を取り巻く環境は急速に変化しており、熟練した施工者の高齢化、人手不足や残業規制適用に伴う「2024年問題」の対応として、施工者の増員と育成が求められています。
コマニーでは施工に特化した教育機関「施工アカデミー」を社内で開校しました。施工の技術はもちろんのこと、社会人として必要な



若手を育成する施工アカデミー

持続可能な施工体制の構築を行うため、これからの担い手となる人財確保と今後のスペシャリストを育成することに取り組んでいます。

能力や考え方を育成しています。また施工の効率化にも力を注ぎ、コマニーで施工がしたいと思えるような活気ある施工現場づくりを実現するため、smart施工を推進しています。
お客様の期待を越える「感動（付加価値）」を提供できるよう、営業から施工までチーム一丸となって取り組んでいます。



お客様の様々なニーズに対応する

複数の業務を行うことができるように幅広いスキルを身につける「多能工化」に取り組んでいます。現場対応力を向上させ、お客様貢献に努めています。

感動・安心・信頼の 施工体制づくり

協力業者様感謝の集い

2023年7月に「協力業者様 感謝の集い」を開催しました。このイベントは、施工の協力業者様に日頃の感謝の気持ちを伝え、ともに間づくりを通してEmpower all Lifeを実現していくためのものです。全国6会場、総出席者数500名以上で行われました。
またイベントでは、継続的な改善・付加価値向上に貢献していただいた協力業者様の表彰もさせていただきました。長年にわたり、無事故無災害の施工を実現していただいた業者に送られる「セーフティマスターアワード」や、コマニーの人財育成の取り組みに賛同し、若手の人財確保や育成を積極的に推進していただいた業者に送られる「フューチャービルダーアワード」など、様々な視点でよこごびを分かち合いました。

これからも協力業者様とともに施工改革を進め、生産性の向上と新たな価値創造を実現していきます。そして、プロとしてお互いに切磋琢磨し、お客様によりこんでいただける施工を実現していきます。



株式会社 一戸工業 一戸秀臣様



地球環境との共存

同じ未来を描く仲間と
共創・連携し、
持続可能な未来を
実現する

2022年に起きた石川県小松市豪雨災害、そして2024年元日に起きた能登半島地震。度重なるこれらの自然災害は、コマニーの従業員の生活にも大きな影響をおよぼし、自然の恐ろしさを身にしみて感じました。なんとか自然災害の連鎖を食い止めたい、そんな思いで環境保全活動を行っています。

私たちは地球沸騰化を抑えるため、エネルギーの使用を最小限にとどめ、再生エネルギーの使用を加速させます。そして新たに地球環境が改善する可能性のある技術を積極的に活用します。

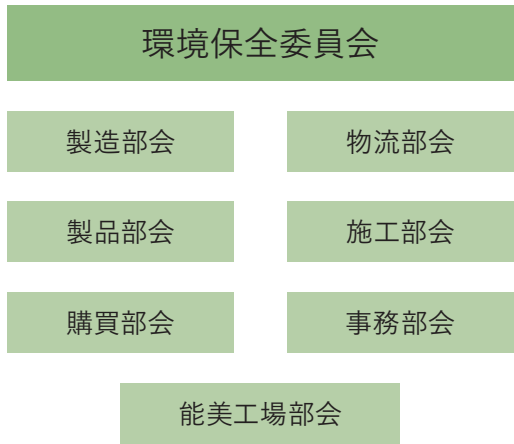
「地球沸騰化」とまで言われている現在の地球。地球環境を守るには、一企業だけの力では難しいかもしれない。だからこそ、同じ未来を描くパートナーの皆様と手を取り合い、持続可能な社会の実現に貢献していきたい。

しかし、一企業の力だけでは、地球を守るには力不足かもしれません。だからこそ、同じ想いを持った企業の皆様と共創・連携していくことで、ともに持続可能な未来を創ってきたいのです。

近年様々な企業や団体の皆様から、環境推進活動のお問い合わせや講演依頼、コマニーへのご来訪が増えています。

環境を守りたいというパートナーの皆様とともに、すべての生命が自然環境と調和し、共存共栄を目指す「Empower all Life」を実現していきます。

環境保全体制



コマニーでは、2000年より以前から環境保全委員会を中心に環境保全活動が行われています。その委員会は部門の垣根を超えた複数の部会で構成されており、それぞれの役割やフィールドで特徴的な活動を行っています。

共通する目的は「脱炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「生物多様性の保全」の3つ。その3点の実現を目指し、連携しながら日々活動を進めています。

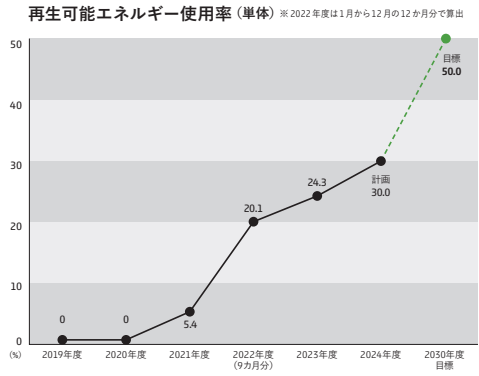
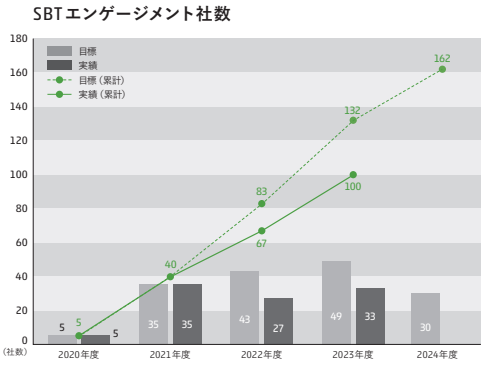
20年以上にもおよぶコマニーの環境保全委員会活動では、毎年高い目標を掲げ、確実にCO₂排出量を削減してきました。2018年のSDGs宣言、そして2030年に目指す姿としての環境負荷50%削減を打ち出してからはその動きが加速し、2020年4月にSBTイニシアチブより認定を取得することができました。

その後、Scope1+2に関しては各部会で省エネ・再エネの両面から手を打って順調に成果を出してきました。しかし、Scope3のサプライヤーエンゲージメント目標に関しては、年4.2%削減の高い目標に対して、当初は躊躇されるサプライヤー様も多くいらっしゃいました。それでも脱

炭素社会を創っていききたいという、高い目標とともにチャレンジしてきました。サプライヤーエンゲージメント80%の目標に対し、現在76.8%まで到達しています。



環境負荷50%削減に向けて



省エネ法の事業者クラス分け評価制度において「Sクラス」評価

経済産業省が行う、省エネ法の定期報告に基づく事業者クラス分け評価制度(2023年度提出分)において、Sクラスと評価されました。2022年度に続き2年連続となります。コマニーが優良事業者のSクラスと評価された理由は、5年間の平均原単位を年1%以上低減していることと、中長期の省エネ目標を

ベンチマークとして掲げ、それらを継続的に達成していることです。今後も省エネ活動、再エネ活動に継続して取り組んでいきます。



CDP「気候変動」3年連続「Bスコア」に認定



コマニーは2030年に目指す姿として、温室効果ガス排出量50%削減、再生可能エネルギー利用率50%を目標に活動を進めています。このような環境に関する情報を開示するために、国際的な非営利団体CDPが公表する「CDP気候変動レポート2023」に参加し、3年連続「Bスコア」に認定されました。

いしかわ森林環境功労者表彰を受賞

2013年に、石川県小松市内に「コマニー絆の森」が誕生しました。これは、環境保護に対する意識向上を目的とするとともに、植樹を通じてCO₂削減を推進するため、クロマツを従業員とその家族で植樹したものです。11年間守り育

ててきたこの活動が評価され、石川県が主催するイベント「第37回県民みどりの祭典」において「いしかわ森林環境功労者表彰」を受賞しました。この制度は森林環境の保全に顕著な貢献をした個人や団体を表彰するものです。



CFP 算出モデルの仕組みづくり

2040年のカーボンニュートラルの実現に向け、環境負荷の削減に繋がる製品開発を進めています。その環境負荷を見える化するため、現在CFP(カーボンフットプリント)算出モデルのしくみづくりを行っています。

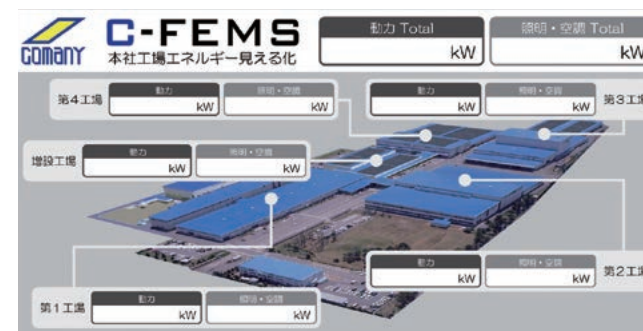
※CFPとは
製品の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでの、ライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を、CO₂量に換算して数値化したもの。

工場暖気活用によるLPG削減

工場では塗装品質を保つため、取り込んだ外気を蒸気で温め、塗装ブース内を一定温度に保っています。冬期は外気温が低く、蒸気を発生させるためのボイラーLPG使用によるCO₂排出量の多さが課題となっていました。昨年設備を改良し、工場内の暖かい空気を活用することに変更。その結果ボイラーLPG使用量の20%削減の効果に繋がりました。



省エネチームの発足



環境負荷50%削減のためには、自然由来の再エネ利用とCO₂排出量削減の両輪の活動が必要ですが、その基本はムダなエネルギーを徹底的に排除する省エネ活動です。その活動を推進するため、各建屋単位で職場を超えた代表者が集まり、省エネチームを発足させました。各職場のエネルギー使用を見える化し、エネルギースキルを蓄積する取り組みをしています。空調や照明、その他什器などの使用に至るまで全員でエネルギーに関する情報を共有し、チリツモの省エネ活動を展開しています。その結果工場から排出されるCO₂量は、2023年の1年間で10%削減されました。

環境負荷50%削減のためには、自然由来の再エネ利用とCO₂排出量削減の両輪の活動が必要ですが、その基本はムダなエネルギーを徹底的に排除する省エネ活動です。その活動を推進するため、各建屋単位で職場を超えた代表者が集まり、省エネ



人間性尊重の職場づくり

従業員の幸福を 本気で実現する 職場づくり

1,380人の従業員がコマニーという一つの船に乗っています。その船が目指すのは、すべての人が光り輝く人生を送る未来であり、より良く働き、より良く学び、より良く生きることに船員一人一人がコミットしている未来です。

64年前の創業時に制定され、私たちが今も大切にしている5つの社是には、まさに従業員とともにその未来を実現するために経営をするという心が表れています。

コマニーでは「幸福とは、人道と友愛に生きることである」と定義しました。「人道とは、成長と貢献による

私たちはどうしてコマニーで働くのか？

私たちが本当に生きたい人生を生きるために、コマニーがある。友愛の心を持った仲間とともに、仕事を通して成長と貢献を感じることができる。

そんなチームを本気で実現する。

こびを感じる生き方」、「友愛とは、自分も自分以外のすべての人も愛する心」のことです。この定義をもとに、コマニーが会社としてできる制度やしきみづくりを一層加速させています。同時に、目指す幸福のあり方を従業員の共通の価値観とすることで、一人一人が自分や仲間の幸福のために考動する意識も高まっています。職種、勤務地、性別、年齢、障害の有無に関わらず、自らと仲間の幸福にコミットし、誰一人取り残すことなく自分らしく働けるコマニーをつくっていきます。

幸福の定義



成長と貢献

自分の使命や、生きたい人生を叶えるための舞台として仕事があります。だからこそ大切なことは、「そもそも自身は何のために生きているのか」ということです。そして、それを叶えるために私たちは成長します。貢献を大きくするために必要なものを磨き、心を高めます。

友愛

私たちが成長と貢献の両輪を回し続ける生き方を可能にするものが「友愛」です。私たちは仲間とともに、お互いを支え合い、心を高め合うことで、何倍もの成果やよろこびを感じることができます。

DX 専門人材育成プログラム『EAGLE』がスタートしました。部門や職歴を問わず全従業員を対象に募集し、応募のあった約120名の中から40名が選拔されました。一人一人が新たな価値を生み出すためにデザイン思考を学び、それを活かして自分の熱意を形にするビジネスプランコンテストにも取り組むなど、実践型で学んでいます。「人」を起点に観察し、課題解決と価値提供に挑戦することで、イノベーション創出を図っています。さらに、部門を超えた新しいパートナーシップも生まれ、これまでにないアイデアが生み出されています。



伊勢神宮内宮門前町にある老舗食堂ゑびや大食堂様を実際に訪問し、DXの実例や大切な考え方を学びました。



熱い想いで 成長機会をつかむ

質を高める学び

2023年より「質を高める、自ら変わる」をスローガンに、主体性を高める数々の取り組みを行ってきました。一人一人が仕事の本質をとらえ、これまで「当たり前だから変えられない」と諦めていた課題に挑戦し、仕事の質向上を図っています。

毎月行われる従業員総会では、全従業員がオンラインで集まり、会社の経営状況や他部門の取り組みを学びます。自分らしく働くための考え方、理念、SDGs、Well-being、D&Iなどを学ぶ機会も、従業員主体で企画しています。また、経営方針の発表会も全従業員が参加することができ、コマニーが目指す方向性を自ら学びにいくことができる機会が用意されています。



オンラインイベント「SDGsWEEK」にて Well-being 研究者の石川善樹さんから自分らしく働くための考え方を学びました。

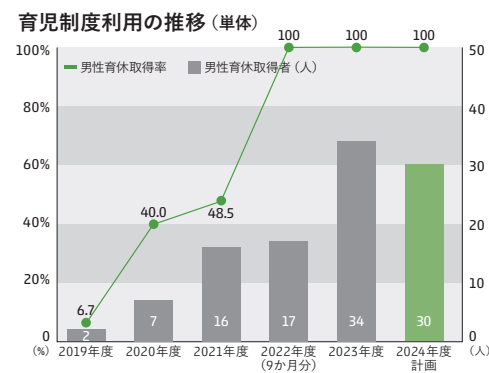


従業員に据えた人事制度

幸福のための賃金体系について、議論やシミュレーションを重ねて導入した賃金制度は、「プロとして自分を磨き（成長）、その評価に対する価値（貢献）をしっかりと受け取ってもらいながら、安心して働くことができる賃金制度」を目指しました。この制度の理解度を高めるために、制度に込めた想いの共有だけでなく、評価のフィードバックの型づくりに取り組んでいます。また、「ワーク・ライフ・インテグレーション」をキーワードに、育児休業に関する制度づくりも進めています。

2022年4月より、男女ともに育児休業1ヶ月取得を必須とし、その期間の給与も支払われる制度が導入されました。従業員だけではなく、その家族の安心感にも繋がっています。一人一人のライフイベントは、人生においてかけがえのない経験ができる機会です。人間的にも大きく成長する機会であり、その成長の

実感こそが貢献に繋がり、その過程において幸福（Well-being）になっていくと考えています。今後も安心して人生を預けられる制度づくりを推進していきます。



コマニーでは、人の心をベースとした大家族主義で経営を行っています。従業員や家族が心身ともに健康で、明るく活き活きと活躍する環境づくりや意識づくりとして、二次検診の100%受診やストレスチェックの課題改善などを行い、従業員の幸福や社会への貢献に繋げています。

和泉 修氏による特別講演会



「足ツボで社員の健康が思う《ツボ》セミナー」を開催し食事や呼吸法、歩き方など、具体的にすぐ実践できるノウハウを楽しみながら学ぶ機会となりました。

二次検診対象者への面談



全従業員を対象とした健康診断を実施し、二次検診が必要な従業員は社内に常駐する看護師と面談を行います。



健康づくりの推進

従業員幸福度調査

従業員を対象に毎年実施してきた「従業員満足度調査」を、2023年から「従業員幸福度調査」に切り替えました。

この調査から多くの従業員は、会社に対して誇りがあり、仕事に対するやりがいを感じていること、会社には従業員を大切にする風土があると感じていることが見えてきました。従業員同士の日々のコミュニケーションや理念研修などの取り組みの成果であり、コマニーが目指す幸福を実現するための強みになっています。



社長と従業員の直接対話

社長が自ら全国の営業所に訪問し、直接対話できる機会をつくることで風通しの良い会社づくりに努めています。

従業員幸福度向上のための7つの施策

- ①経営の具体的な方向性の打ち出し
- ②人的リソースの再配分
- ③部門業務を遂行するための習熟ステップのしくみ化
- ④各年齢層の収入不満に対する理解度向上
- ⑤人事評価フィードバックの型づくり
- ⑥部門別の課題把握と対策検討
- ⑦幸福度における強み項目の維持と向上

創立63周年記念式典

全従業員が金沢、東京、大阪の3拠点に集まり、周年記念式典が行われました。一年間の活動の成果を称え合い、素晴らしい考え方や好事例に対して感謝を伝え合うことで、全社一体となって共感しながら学びました。

そしてコマニーが真に目指す「幸福」のあり



左 / 仲間同士で感謝、祝福、称賛し合いました。
 右上 / 「Empower all Life ～一人一人が光り輝く社会～」を体感しました。
 右下 / 社長 塚本健太よりビジョンが発表されました。

方や、これから必要となる経営観の意識変容について明確にしました。「Empower all Life ～一人一人が光り輝く社会～」を体感するプログラムを通して、その未来を自らの手で実現するというのが、従業員一人一人の意志になっています。





社会貢献活動

主体性と繋がりを大切に協力し合うコミュニティになる

私たちは事業活動にとどまらず、より多くの人々の幸福に貢献するために何ができるかを考え、社会貢献活動を展開しています。

その中で私たちが1番大切にしていることは「従業員の主体性」です。相手のために心から「したいと思う」ことを、素直に実践します。また、貢献を実感することにより視野や良心が開かれ、事業活動にも役立つと考えています。地域の皆様とのコミュニティ、震災復興へのボランティア、発展途上国への教育支援など、私たちは何度も現地

日々変化する社会問題や、度重なる自然災害。
自ら現地に赴き、生の声を聞いてきた私たちだからこそ地域のネットワークがどれほど大切かを知っている。
行政・企業・地域が強みを活かし合って共存共栄していくことで、誰一人取り残さない Empower all Life の世界を実現する。

に赴き現場の生の声を聞いてきました。そして地域のコミュニティの強さが、いざというときに大きな力を発揮するということも知りました。

同じ未来を描く行政・企業・地域の皆様と協力し、お互いの強みを活かしてネットワークを広げていきます。そして将来にわたって明るい未来を築いていくことができるよう、地域への貢献、日本への貢献、そして世界への貢献と活動の輪を広げ、様々な問題解決を通して世の中の幸福に貢献していきます。

真の復興を目指して



災害ゴミを軽トラックへ積み込む

2024年元日に発生した令和6年能登半島地震。能登ではたくさんの人々が被災しました。私たちも1月6日に初めて被災地に向かい、その光景を目の当たりにしたときは愕然としました。この町はどうなっていくのか。とにかく生きることに精一杯の被災された方々を見ると、過酷という言葉しか浮かんできませんでした。2日間のボランティアでしたが、帰るときはいたたまれない気持ちになり、ボランティア経験の少ない私たちがこの状況で何ができるのか、迷いながら考え続けました。

そして始まった、能登支援プロジェクト。1月下旬から毎週末現地に足を運び、能登島地区を中心に家屋のゴミ出しや清掃作業をしています。ただ片付けを手伝うだけではなく、「最近の生活はどうか?」「次来るときに持ってきてほしいものはありますか?」などの現地の方々との会話を大切にし、心のケアもできるように意識しています。

社内外からたくさんの方にご協力いただき、2024年5月末時点で延べ560人の方にご参加いただいています。

毎週末ボランティアに訪れていると、町の方々から声をかけていただくようになりました。

「こっちもお願い」「本当に助かった。ありがとう。私たちも頑張るから、水が出るようになったら必ず遊びに来てね!」



支援物資を届ける

そう言うくださる関係性をつくることができたのも、一人一人の心に寄り添った活動ができた成果だと思います。

ボランティア活動をしていく中で、現地の方が「自立」できるようになることが重要だと感じています。今は毎週末ボランティアに入っていますが、期限なくいつまでもできる訳ではありません。どこまでお手伝いしたらよいのか、線引きに迷うこともあります。自立して生活を立て直していただくための、心をベースとした支援を引き続き行っています。

そしてやはり、「人」が戻ってくることで初めて復興と言えるのだと思います。この先もたくさん迷うことがあると思いますが、能登の復興・未来について皆様とともに考え、進んでいきたいと思っています。目の前のがれきがなくなり、仕事ができ、観光客が戻ってくる。能登の真の復興を実現するために、貢献していきます。

被災地支援リーダー 高橋 未樹子



地域との繋がりを大切に

私たちは有事の際だけでなく、日頃から地域の皆様との繋がりを強めることを意識しています。一つ一つの出会いを大切にし、お互いの

知る・出会う・繋がる「UE-Café @小松」



コマニーはNPO法人ユナイテッド・アースの石川事務局として活動しています。その一環として、地域で活躍している市民や学生とともに社会課題について考える「UE-Café @小松」を毎年開催しています。個人や一企業だけではできないことも、良心で繋がった強いネット

楽しみながら社会貢献ができる「コマフェス」



コマフェスは、「楽しみながら様々な社会貢献ができたらい」という想いから、誰でも参加できる社会貢献活動として2015年より毎年開催されています。

こまつ市民大学で「和ハーブ」講座



強みや未来に向けた想いを知ることで、「何か行動を起こしたい!」と思ったときに支え合える関係性を築いています。



ワークがあれば実現できるかもしれません。同じ想いをもった同志が集うことで、お互いの強みを活かしながら貢献活動を展開しています。ともに持続可能な社会を実現するための関係性をつくる、それが「UE-Café @小松」です。



2022年は「Smile」、2023年は「Enjoy」をコンセプトに、楽しみながらちょっといいことができるチャリティフェスとして開催しました。

こまつ市民大学にて、三井住友海上火災保険株式会社様と共同で「こまつの里山に学ぶ『和ハーブ』の魅力と自然との共生」という講座を開催しました。講義やフィールドワークを通して、食に対する学びや健康経営へ繋がる活動も行っています。

カンボジアの子どもたちの未来を創る



おかゆ給食を食べるプレイクラン村の子どもたち



建築学科で懸命に勉強をしているサエン君

2016年より、コマニーでは世界貢献の活動としてカンボジアへの支援を行っています。NPO法人のグローブ・ジャングル様が支援しているプレイクラン村を中心に、井戸堀支援や、里親支援として大学へ通っているサエン君への学費支援などを行っています。その他にも、プレイクラン村の子どもたちが勉強をするための図書館やパソコン教室の建設支援、朝ご飯が食べられない子どもたちへのおかゆ給食も支援しています。また、このような活動をさらに広げてさせていくために、社内では定期的に支援金を募る活動も行っています。



パソコン教室「みらい」で学ぶ子どもたち

活動していく中でカンボジアの子どもたちの笑顔がどんどん増えていき、この子たちがこれからの未来を創っていくのだと確信しました。今後もプレイクラン村へ様々な支援を継続しながら、貢献の輪を広げていきたいと思います。



コマニーの部活動は、社会貢献に繋がるイベントに数多く参加しています。野球部とソフトボール部は能登の被災地支援として、キャッチボール教室やプロのゲストを招いた野球教室を行いました。子どもたちは震災後、なかなか体を動かすことができませんでした。楽しくボールを追いかける姿を見た保護者の方からは「元気に体を動かす子どもたちを見ることができ、とても感激しています!試合、応援に行き

ますね!」との声をいただきました。ブラスバンド部の「ブルーリアン」は、ゴールデンウィークに開催された「ガルガンチュア音楽祭2024」に参加しました。大勢の音楽ファンや観光客、地元の方にご来場いただきました。さらに会場の近くでは、能登を支援する「出張輪島朝市」も開催されており、能登から来られた方にも演奏で元気を届けることができました。

部活動による社会貢献

Letter 5

私たちの今を伝える

今、私たちに変わろうとしています。
本当に「間づくりで Empower all Life を実現する」ために、
覚悟を決めて取り組んでいます。

「結果を出せば幸福^{いふく}になる」というこれまでの考え方を捨て、
「本当に幸福のことを考えて行動すれば、結果は必ずついてくる」
と信じ、私たちに私たちに関わるすべての人の幸福を思い、
挑戦しています。

新しい価値観に挑戦しているからこそ、
時には失敗して涙を流し、挑戦の先に成功して全力で喜び、
そのすべてが私たちの実績です。

 gomany
Empower all Life

役員紹介
(2024年3月22日現在)



役員スキルマトリクス

各取締役および監査役が有する主な知見・経験は次のとおりです。

役職	氏名	性別	知見・経験								
			経営経験（※）	事業戦略・営業	生産・技術・開発	経営企画・ブランドマーケティング	人事・労務	金融・財務・会計	IT・情報セキュリティ	法務・監査・リスクマネジメント	SDGs・サステナビリティ
代表取締役 会長執行役員	塚本 幹雄	男	●	●	●	●					
代表取締役 社長執行役員	塚本 健太	男	●	●		●		●	●	●	
取締役 専務執行役員	東本 太志	男	●	●							
取締役 専務執行役員	塚本 直之	男	●		●	●		●		●	
取締役 常務執行役員	田中 克政	男	●			●	●		●		
社外取締役	大久保 制宇	男	●	●			●			●	
社外取締役	榊原 健郎	男	●	●		●	●	●		●	
社外取締役	前野 マドカ	女	●				●			●	
常勤監査役	元田 雅博	男	●	●			●			●	
社外監査役	松垣 哲夫	男	●		●		●	●		●	
社外監査役	鎌田 竜彦	男						●		●	

【注】 1. ある程度（経営判断が可能）の経験を有するものに、“●”を付しています。
2. 「経営経験」については、常務会等の業務執行の判断を伴う会議体メンバーとして属していた場合に該当するものとします。

1 代表取締役 会長執行役員
塚本 幹雄

1973年 4月 当社入社
1980年 2月 当社取締役
1980年 8月 当社常務取締役
1982年 7月 当社専務取締役
1984年 3月 当社代表取締役専務
1987年 6月 当社代表取締役副社長
1988年10月 当社代表取締役社長
2005年 6月 当社代表取締役社長 社長執行役員
2014年 6月 当社代表取締役 社長執行役員
2019年 6月 当社代表取締役 会長執行役員（現任）

2 代表取締役 社長執行役員
塚本 健太

2009年 5月 当社入社
2010年 4月 当社経営管理部責任者
2011年 6月 当社取締役
当社執行役員
2011年 7月 当社管理本部副本部長
当社HPC推進室部責任者
2012年 4月 当社管理統括本部副本部長
2012年 6月 当社常務執行役員
当社管理統括本部長
2015年 6月 当社営業統括本部長
2016年 6月 当社事業統括本部長
2017年 6月 当社専務執行役員
2019年 6月 当社代表取締役 社長執行役員（現任）

3 取締役 専務執行役員
東木 太志

1988年 4月 当社入社
2005年 4月 当社西日本支社副支社長
2008年 7月 当社西日本営業本部副本部長
2013年 7月 当社東海営業本部長
2017年 4月 当社関西営業本部長
2018年 6月 当社執行役員
2019年 1月 当社営業統括本部副統括本部長
当社東京営業本部長（現任）
2019年 6月 当社常務執行役員
当社営業統括本部長（現任）
2020年 6月 当社取締役（現任）
2024年 3月 当社専務執行役員（現任）

4 取締役 専務執行役員
塚本 直之

2007年 6月 当社入社
2010年 4月 当社製造管理部担当課長
2011年 7月 当社製造管理部製造企画課責任者
2013年 1月 当社経営企画部責任者
2015年 6月 当社執行役員
当社管理本部長
2016年 4月 当社経営企画本部長
2018年 6月 当社常務執行役員
2019年 1月 当社東南アジア事業部長
2020年 4月 当社研究開発本部長（現任）
2020年 6月 当社取締役（現任）
2021年 4月 当社経営企画開発統括本部長（現任）
2024年 3月 当社専務執行役員（現任）

5 取締役 常務執行役員
田中 克政

1991年 4月 当社入社
2000年 4月 当社情報システム部推進課責任者
2007年 4月 当社経営企画部副責任者
2012年 4月 当社人事部人材開発課責任者
2013年 4月 当社人事部人事課責任者
2015年 6月 当社人事部責任者
2019年 6月 当社執行役員
2020年 6月 当社常務執行役員（現任）
当社総務統括本部長（現任）
2022年 6月 当社取締役（現任）

6 社外取締役
大久保 制宇

1978年 4月 富士紡績㈱
（現 富士紡ホールディングス㈱）入社
2006年 5月 柳井化学工業㈱取締役
2009年 2月 富士紡ホールディングス㈱法務部長
2014年 4月 同社執行役員 法務部長兼コンプライアンス委員長
2014年 6月 同社取締役上席執行役員 法務部、内部監査室、総務部、人事部担当兼コンプライアンス委員長
2017年 7月 同社常務執行役員 法務・人事・総務・内部監査担当兼コンプライアンス委員長
2018年 7月 同社上席顧問 法務・人事・総務担当
2019年 7月 同社顧問 法務・総務担当
2021年 6月 当社社外取締役（現任）

7 社外取締役
榊原 健郎

1983年 4月 ライオン㈱入社
2002年 9月 榊原健郎税理士事務所代表（現任）
2010年 1月 ライオン㈱執行役員 ヘルスクエア事業本部長
2012年 1月 同社執行役員 ライオン商事㈱代表取締役社長
2016年 1月 同社執行役員 社長付
2016年 3月 同社取締役、執行役員、リスク統括管理担当、経営企画部、経理部、お客様センター、薬事・品質保証部、法務部担当
2017年 3月 同社取締役、上席執行役員、リスク統括管理担当、経営戦略本部分担、お客様センター、薬事・品質保証部、法務部担当
2020年 1月 同社取締役、上席執行役員、リスク統括管理担当、経営企画部、経理部、お客様センター、信頼性保証部、法務部担当
2022年 3月 同社アドバイザー
2022年 6月 当社社外取締役（現任）
2022年12月 ㈱DACホールディングス顧問（現任）
2023年 6月 オイレス工業㈱社外監査役（現任）

8 社外取締役
前野 マドカ

1988年 4月 丸紅エネルギー㈱入社
1992年 9月 アンダーセン・コンサルティング㈱
（現 アクセンチュア㈱）入社
2015年 7月 EVOL ㈱代表取締役（現任）
2018年 2月 一般社団法人ウェルビーイングデザイン理事（現任）
2023年 4月 GCストーリー㈱社外取締役（現任）
2024年 3月 当社社外取締役（現任）

9 常勤監査役
元田 雅博

1982年 4月 当社入社
1998年 4月 当社社長室部責任者
2002年 4月 当社グループ企画部責任者
2004年 5月 当社総務部責任者
2008年 6月 当社執行役員
2008年 7月 当社総務・人事部責任者
2012年 4月 当社人事部責任者
2015年 6月 当社取締役
当社常務執行役員
当社管理統括本部長
当社総務本部長
2019年 6月 当社総務統括本部長
2020年 6月 当社監査役（現任）

10 社外監査役
松垣 哲夫

1976年 4月 東亜燃料工業㈱（現 ENEOS㈱）入社
2000年 7月 日興證券㈱（現 SMBC日興證券㈱）入社
2000年12月 同社法務部長
2004年 8月 マネックス・ビーンズ・ホールディングス㈱
（現 マネックスグループ㈱）社外監査役
2006年 6月 ㈱日興コアリアルグループ監査特命取締役
2008年 7月 シティバンク銀行㈱取締役副社長 財務・企画本部長
2012年 1月 同社執行役員 事業戦略企画部門共同部門長
2015年 6月 同社顧問
当社社外監査役（現任）
2015年11月 ㈱SMBC信託銀行プレスティア事業部門顧問
2016年 7月 同社個人金融部門・コンプライアンス部門顧問

11 社外監査役
鎌田 竜彦

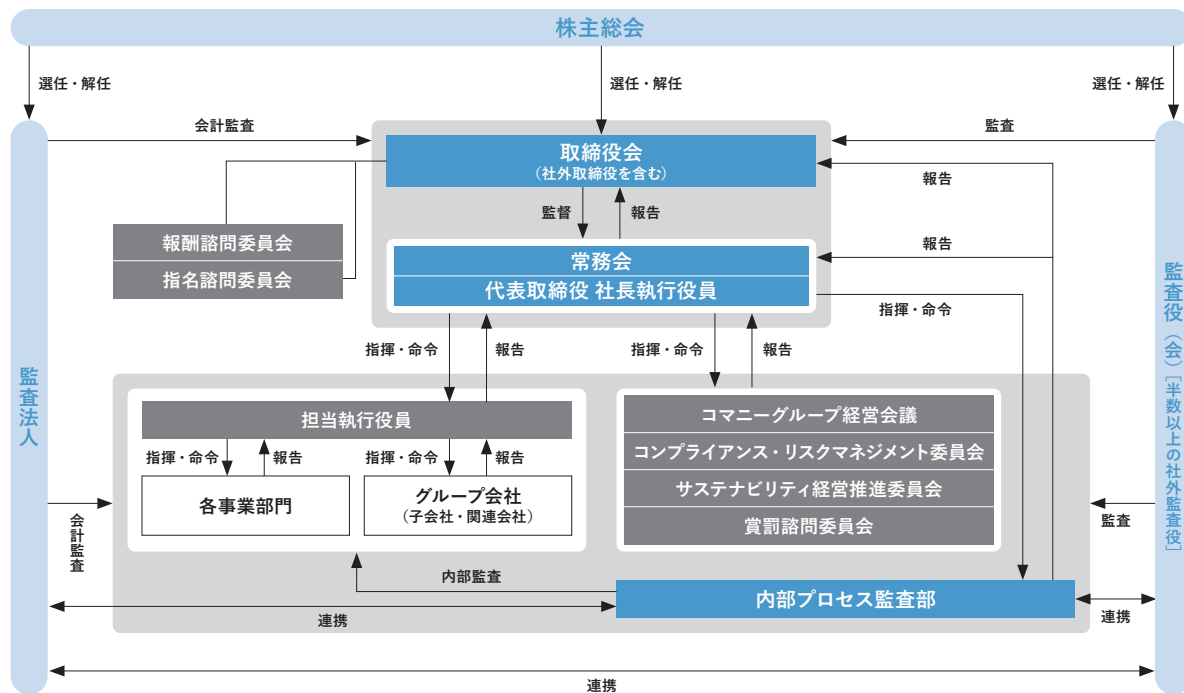
1988年10月 サンワ・等松青木監査法人
（現 有限責任監査法人トーマツ）入所
2005年 6月 監査法人トーマツ
（現 有限責任監査法人トーマツ）パートナー
2018年 8月 鎌田公認会計士事務所代表（現任）
2019年 6月 当社社外監査役（現任）
㈱リアルゲイト社外取締役（現任）
2020年 6月 TriValue ㈱非常勤監査役（現任）
2020年 7月 合同会社TKMマネジメント代表社員（現任）
2021年 8月 ㈱レジデンシャル不動産社外監査役（現任）
2022年 9月 ㈱イマクリエ非常勤監査役（現任）
2022年10月 ㈱ブラネット取締役監査等委員（現任）

● コーポレート・ガバナンス

私たちは、経営の理念をもとに企業価値を増大させ、経営効率を高め、公正で迅速な意思決定の向上に努めていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。今後も経営の健全性および透明性を確保するために、経営監督機能および法令遵守体制強化の重要性を認識し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ってまいります。

コーポレート・ガバナンス体制

【コーポレート・ガバナンス体制図】



取締役会

取締役会付議・報告事項に関する内規に従い、当社の経営に関する基本方針を決議し、重要な業務の執行状況につき報告を受けております。また、取締役会は原則月1回開催するほか、必要に応じて随時開催しており、当事業年度においては合計13回開催いたしました。なお、事業環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役の任期を1年としております。

取締役会の諮問機関

報酬諮問委員会は、取締役会からの諮問を受け役員などの報酬などを審議し、指名諮問委員会は、取締役会からの諮問を受け役員などの人事などを審議し、取締役会に答申することにより、この事項に関する客観性および透明性を確保して、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。

当事業年度においては、報酬諮問委員会は6回、指名諮問委員会は4回開催いたしました。

コーポレート・ガバナンス体制

機関設計	監査役会設置会社
取締役の任期	1年
執行役員制度の採用	有
取締役会の任意諮問機関	指名諮問委員会、報酬諮問委員会
会計監査人	仰星監査法人

監査役（会）

監査役は、監査の方針および業務分担に従い、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、取締役などから執務状況の報告を聞き、重要な決裁書類などを閲覧し、本社および主要な事業所の業務および財産の状況を調査し、必要に応じて子会社から営業の報告を求めています。

また、取締役の競業取引、利益相反取引、会社が行った無償の利益供与などに関して情報を収集し、当該取引の状況の確認を行っております。

監査役会は、取締役会開催に先立ち月次で開催されるほか、必要に応じ随時開催しており、当事業年度は合計で12回開催いたしました。

コンプライアンス・リスクマネジメント委員会

当社グループは、コンプライアンスに係る施策やリスクマネジメントの対応施策を審議する機関としてコンプライアンス・リスクマネジメント委員会を設け、毎月開催しております。

常務会

取締役会で決定した経営基本方針に基づき、経営に関する重要な事項のうち、取締役会付議事項の事前審議および取締役会から社長執行役員に委任された事項について社長執行役員の諮問機関として審議しております。常務会は、原則週1回開催しております。

コマニーグループ経営会議

代表取締役塚本健太が議長となり、執行役員、連結子会社の役員に加え、関係部門責任者が参画し、経営方針や中長期の戦略の全社共有化を図り、事業環境の変化に迅速に対応できる意思決定に結びつけております。

サステナビリティ経営推進委員会

代表取締役塚本健太を委員長とし、年2回開催しております。当社グループが目指す「COMANY SDGs ∞（メビウス）モデル」を持続的に循環させ、「財務と非財務」「プロダクト・サービスとガバナンス」がシナジーを生むかたちで推進できるよう戦略的な意思決定を行い、推進しております。

主要会議体の取締役・監査役の参加状況

役付	氏名	取締役会	監査役会	指名諮問委員会	報酬諮問委員会	常務会
代表取締役 会長執行役員	塚本 幹雄	◎		◎	◎	
代表取締役 社長執行役員	塚本 健太	○		○	○	◎
取締役 専務執行役員	東木 太志	○				○
取締役 専務執行役員	塚本 直之	○				○
取締役 常務執行役員	田中 克政	○				○
社外取締役	大久保制宇	○		○	○	
社外取締役	榑原 健郎	○		○	○	
社外取締役	前野マドカ	○		○	○	
常勤監査役	元田 雅博	△	◎			△
社外監査役	松垣 哲夫	△	○			
社外監査役	鎌田 竜彦	△	○			

◎：議長／委員長 ○：構成員／委員 △：参加者

取締役会、監査役会の実効性確保の取り組み

現在、当社の取締役会は取締役8名、監査役3名で構成しております。この内、社外取締役は3名（3分の1以上）、社外監査役は2名（過半数）であります。当社は、取締役会においてより実質的な議論を活発に行うための取締役の人数として、10名以内が適切であると判断しております。

取締役候補者については、当社の企業価値の向上に繋がるよう、知識・経験・能力などを定めた候補者選任基準をもとに、指名諮問委員会において審議のうえ、取締役会において選定いたしました。

取締役会の自己評価

当社は毎年1回、取締役・監査役自身による「取締役会自己評価」を実施し、取締役会の運営などに関して改善すべき意見などを集約確認することにより、実効性の高い運営を議論することで改善に結び付け、会社の健全な成長・発展、企業価値の向上に繋げております。

監査役会の自己評価

監査役会についても、毎年1回、「監査役会自己評価」を実施しております。評価結果を踏まえ、監査役監査計画に重点事項として反映することにより、監査役会の機能の向上を図っております。

〈取締役会の自己評価結果の概要〉（2023年12月期）

- 社外取締役および社外監査役を含め、多様な知識、経験をもつ取締役・監査役で適切に構成されている。
- 取締役会の資料の早期発信・発送により、事前に審議内容の検討が行われている。
- 社外役員への会社理解や議題内容の検討のため、事前の説明会が行われている。
- 中長期の経営戦略や経営課題、新規事業などの審議を行う時には、必要に応じて議論する機会を別途設けるべきである。
- 取締役、監査役の役割や責任に関する認識を深めるため、継続的に研修などを実施すべきである。

経営理念などの徹底および内部監査などの取り組みについて

- 当社グループは「我等の精神は人道と友愛である」という心をベースにしたコマニー理念の浸透を図るため「社是」・「経営の理念」・「コマニー信条」および「コマニー理念」を記載した「コマニー理念手帳」を作成しております。毎朝の朝礼時に「コマニー理念」の輪読を行っており、理念教育として「コマニー理念研修」を毎年実施し、役職員などへの理念の浸透を図っております。また、取締役および使用人が職務を執行するにあたっての遵守事項として「コマニーグループ行動規範」を定めており、法令、企業倫理、社内規程などを遵守し、社会規範に沿った責任ある行動をとるよう、当社グループ内への周知徹底を行っております。さらに、ダイバーシティ&インクルージョンやサプライチェーンを含めた人権尊重への取り組みを推進するために「コマニーグループ人権方針」を定めております。
- 当社は「内部監査規程」に則り、社長直轄の内部プロセス監査部において取締役会で承認された年間監査計画に基づき当社グループの監査を実施し、監査結果を取締役に報告しております。
- 国内外の関係会社については「関係会社管理規程」に則り、定期的に業務運営のモニタリングを実施しております。

〈コマニーグループ行動規範〉

<https://www.comany.co.jp/company/philosophy/codeofconduct/>

〈コマニーグループ人権方針〉

https://www.comany.co.jp/company/human_rights/



コンプライアンスおよびリスク管理に関する取り組みについて

- 当社は、「リスクマネジメント規程」、「営業秘密管理規程」、「特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」や「特定個人情報取扱規程」などの社内規程を整備し、コンプライアンスに係る施策やリスクマネジメントの対応施策を審議する機関として「コンプライアンス・リスクマネジメント委員会」を設け、毎月開催しております。
- 当社は、職場において企業倫理やコンプライアンス意識の浸透・向上を図るため、全役職員を対象にしたコンプライアンス教育を行っております。また、社内掲示などを利用した法令遵守などの情報発信を継続的に行っております。
- 当社は、法令や規則、社内規程などの遵守を徹底し、それらの違反の有無を確認する目的で、各執行役員およびその他の主要業務執行者より年次確認書を取得しております。
- 当社は、「コンプライアンス ホットライン規程」を整備し、当社および国内子会社の役職員などからの内部通報に対応できるよう努めております。また、第三者機関を窓口とする内部通報窓口と外部通報窓口を社外に設置し、不正行為などの早期発見と未然防止に努めております。
- 地震などの災害や感染症などの危機管理については、「リスクマネジメント規程」、「安全衛生規程」などを定め、災害や火災について定期的な訓練を実施しております。また、新型コロナウイルス感染症リスクに対応するため、当社に「対策本部」を設置し、感染予防・防止策などの対応を図っております。
- 反社会的勢力の排除に関して、社内掲示などを利用した役職員への周知徹底や取引契約書への反社会的勢力排除条項の織り込みなどを行っております。



〈外部通報窓口〉

当社では、当社および当社グループ役職員などの法令違反または不正行為の早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営の強化に資することを目的に、外部通報窓口を設置しております。

当社または当社グループの役職員などの法令違反や不正行為を認められた場合は、次のURLにある窓口（コマニー 外部通報窓口）までご通報いただきますようお願いいたします。

<https://www.comany.co.jp/hotline/>

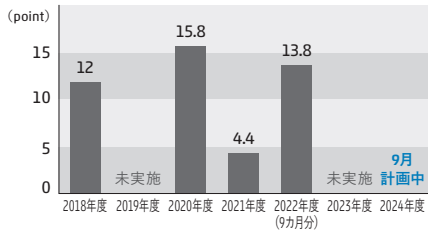
パフォーマンスハイライト

※当事業年度は、2023年1月から2023年12月までとなります。2023年7月より、子会社クラスター株式会社合併のため数値を追加しています。



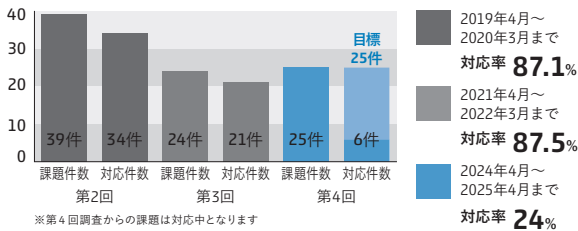
非財務情報

総合評価：NPSポイント

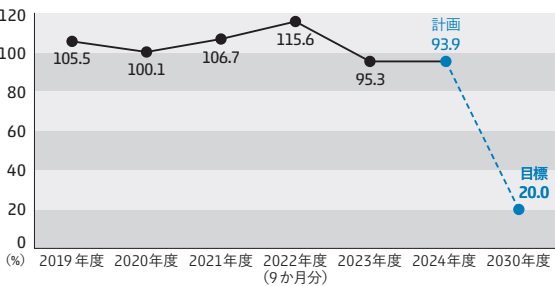


NPSポイントとは、ネット・プロモータースコア(英語: Net Promot-er Score)の略で、顧客ロイヤリティ(企業やブランドに対する愛着・信頼の度合い)を数値化する指標です。当社は、このNPSポイントで総合的な顧客評価を行っています。

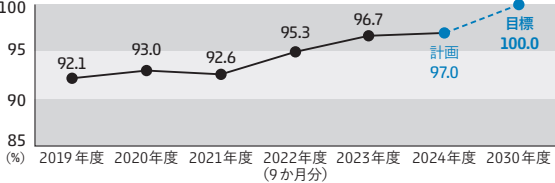
お取引先様満足度調査からの課題解決件数



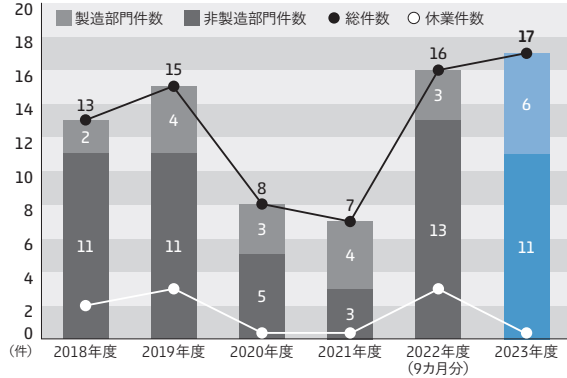
年間産業廃棄物排出量(単体)



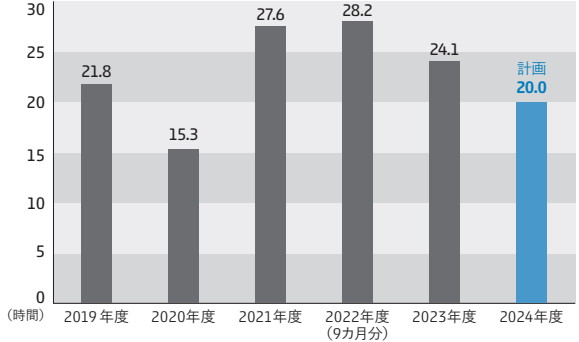
廃棄総量リサイクル率(単体)



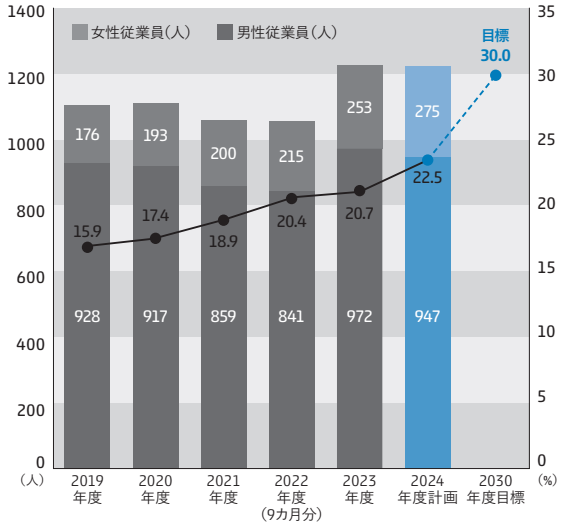
労働災害の発生状況(単体)



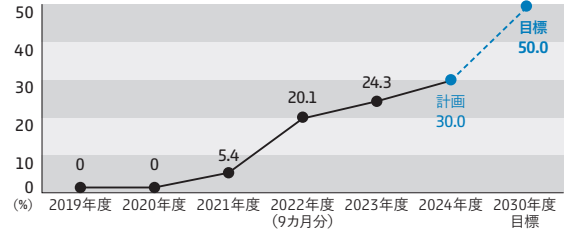
一人当たり月間残業時間推移(単体)



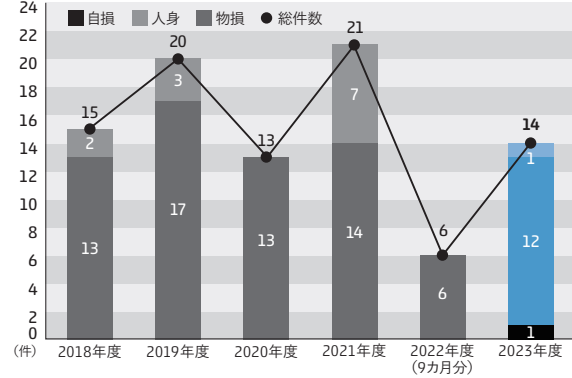
女性従業員人数と比率の推移(単体)



再生可能エネルギー使用率(単体)



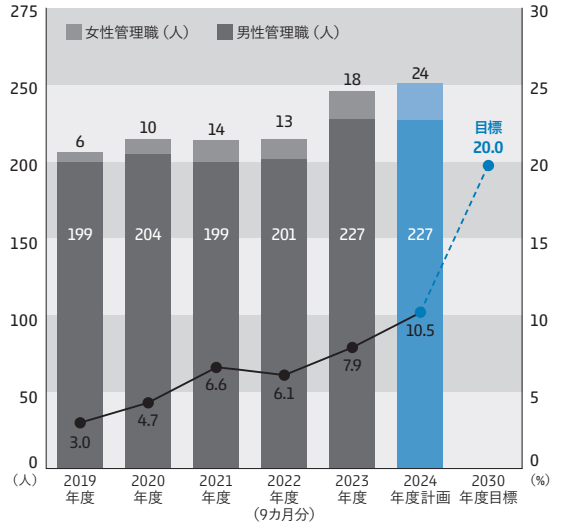
交通事故の発生状況(単体)



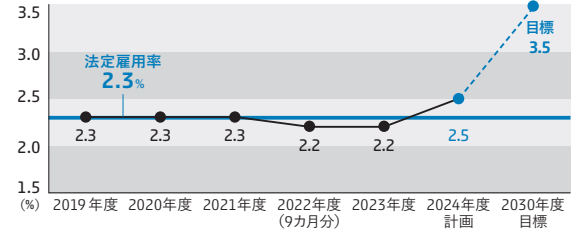
育児制度利用の推移(単体)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度(9カ月分)	2023年度	2024年度計画
育児休暇取得率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
時短勤務者比率	90.5%	94.7%	85.0%	66.7%	73.1%	85.0%
第一子出産継続就業率	100.0%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性育児取得者(人)	2	7	16	17	34	30

女性管理職人数と比率の推移(単体)



障害者雇用比率(単体)



● 会社情報

会社概要（2023年12月現在）

社 名	コマニー株式会社（英訳名 COMANY INC.）
本 店	石川県小松市工業団地一丁目 93 番地
設 立	1961 年 8 月 18 日
資本金	100 百万円

従業員数（連結）1,210 名（単体）1,146 名
主な事業内容
パーティション（間仕切り）の開発、設計、製造、販売および
施工並びにパーティション関連の内装工事、建具工事

グループ会社	（国内）1 社（海外）2 社
決算期	12 月

沿革

年月	概要
----	----

1961年8月	小松キャビネット株式会社設立
1970年6月	社名を株式会社コマツパーティション工業に変更
1980年12月	パーティション業界 売上高第一位達成
1984年11月	社名をコマニー株式会社に変更
1985年11月	デミング賞実施賞中小企業賞を受賞
1989年11月	株式を名古屋証券取引所市場第二部に上場
1996年10月	1996 年度 T P M 優秀賞第一類を受賞
1996年12月	格満林国際貿易（上海）有限公司を設立
1999年10月	1999年度 T P M 優秀継続賞第一類を受賞
1999年12月	ISO9001認証を取得
2001年11月	ISO14001認証を取得
2007年4月	南京捷林格建材有限公司を子会社化
2012年2月	格満林（南京）新型建材科技有限公司を設立
2015年6月	東京証券取引所市場第二部に上場
2018年4月	子会社コマニーエンジニアリング株式会社を吸収合併

2018年4月	「コマニーSDGs 宣言」を表明
2019年6月	小松市と「SDGs 推進に関するパートナー協定」を締結

2020年1月	格満林（南京）新型建材科技有限公司を譲渡
2021年4月	タグラインを刷新「Empower all Life」
2021年12月	名古屋証券取引所市場第二部から上場廃止
2022年4月	東京証券取引所スタンダード市場に移行
2022年5月	MBOを実施
2022年7月	東京証券取引所スタンダード市場から上場廃止 ※非上場化

2022年12月	株式会社コマツコーサンを吸収合併
2023年7月	子会社クラスター株式会社を吸収合併
2024年4月	PT COMANY Mazukuri INDONESIAを設立（インドネシア）

外部評価・認証・宣言

2016年9月
ユニバーサルデザイン折り戸「Dear-d（ディアード）」が 2016年度グッドデザイン賞を受賞

2018年4月
「コマニーSDGs宣言」を表明

2018年8月
国連グローバル・コンパクトに署名

2019年6月
「コマニーグループ人権方針」を策定

2019年6月
次世代認定マーク「くるみん」を取得

2019年10月
やさしいドアシリーズが2019年度グッドデザイン賞を受賞

2019年10月
再エネ100宣言RE Actionに加入

2019年11月
グリーン購入大賞（大企業部門）を受賞

2020年2月
「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同

2020年3月
JMAQA AWARDS 2020を受賞

2020年4月
SBTイニシアチブから認定

2020年7月
FSC認証を取得 「パートナーシップ構築宣言」公表

2021年1月
「女性のエンパワーメント原則（WEPS）」に署名

2021年3月
「石川県ワークライフバランス企業」知事表彰受賞および「石川県パパ子育て応援企業」認定

2022年1月
TCFDへの賛同を表明

2022年3月
団法人日本能率協会主催 「KAICA Awards 2022 KAICA大賞」を受賞

2022年7月
「COMANYグループCSR調達ガイドライン」を制定

2023年3月
「CDP2022 サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定

2023年4月
「間づくり研究所」を開所 「オルガテック東京2023 ベストプレゼンテーション AWARD」2年連続ノミネート賞を受賞 TNFDへの賛同 30by30アライアンスへの加盟

2023年10月
次世代パーティションWEDGE（ウェッジ）が 2023年度グッドデザイン賞を受賞



編集方針

この統合報告書では、コマニーグループの価値創造モデルと目指す姿を取り組みの具体事例を交えて分かりやすくご紹介することを目指して作成いたしました。

現在は地球環境をはじめ、災害や感染症など世の中は大きく変化するとともに、人々の価値観も変化しています。コマニーグループでは大切にしてきた普遍の原理原則であるコマニー理念のもと、新たな価値を創造する企業づくりに向けた「間づくりで Empower all Life を実現する」に取り組み、新たな社会をつくる一翼を担うべく取り組んでいます。

今回の「COMANY REPORT 2024」を通じて、ステークホルダーの皆様には私たちの取り組みについてより一層のご理解をいただき、これまで以上に親しみをもっていただく一助となれば幸いです。今後もすべてのステークホルダーの皆様との対話を大切に企業運営を行ってまいりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。

報告対象期間

2023年12月期（2023年1月～12月）

を対象としています。

ただし、必要に応じて当期間の前
後についても言及しています。

各種情報提供ツールのご紹介

本レポートに掲載されていない活動やデータなどは、ウェブサイトでご覧になれます。様々な情報の発信を企業情報サイトでを行っています。

コマニー企業情報サイト
https://www.comany.co.jp

サステナビリティの取り組み
https://www.comany.co.jp/sdgs/



This is our **Communication on Progress** in implementing the Ten Principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

SDGs への取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指して、国連加盟国によって採択された普遍的な17の国際目標です。私たちコマニーグループは、「人道と友愛」の精神と、サステナビリティ方針にある「企業は世の中の幸福に貢献するために存在すべきである」という信念のもと、SDGsに賛同し、持続可能な未来を築いていくことに努めてまいります。



「国連グローバル・コンパクト」に署名しています

国連グローバル・コンパクトとは、1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）の席上でコフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱したイニシアチブで、2000年7月26日にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。私たちコマニーグループは、地球規模で責任ある企業として行動し、社会の課題を解決していくことを国際社会に表明しました。グローバル・コンパクトの「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野にわたる10原則を支持・実践することにより、持続可能な社会の発展に向けた取り組みを推進してまいります。



Closing Letter

コマニーさんへ

たくさんのお返事、ありがとうございました。
最近、会話をする時に「よい間をついてあげよう」と思い、少しだけ声のトーンを上げて話そうにしてみました。
そうしたら、ほんの少し意識を変えただけで、いつもより相手の笑顔が増え、会話が盛り上がるんです。
ちょっとだけ意識して相手を笑顔にすることも、Empower all life なのかなって勝手に思っちゃいました。
今日から私も間づくりするパートナーですね！
「間づくり」でたくさん^{しあわせ}の幸福を生み出していきます。
そして幸福を感じて毎日を過ごしていきます。
コマニーさんと一緒に間づくりできる仲間がたくさん増えますように。

コマニー 株式会社 様

コマニー株式会社

〒923-8502 石川県小松市工業団地一丁目93番地
<https://www.comany.co.jp/>

問い合わせ先

経営企画本部 経営企画部
TEL 0761-21-1201

第9版

- この報告書の内容は2024年6月現在のものです。
- 商品改良のため予告なく仕様を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
- 報告書の写真は印刷のため、商品の色と多少異なる場合があります。

B1605- ⑨・1-1760